

富山大学 学報

第245号

目 次

| | | | |
|------------------------------|----|----------------------------|----|
| 学 長 告 辞…………… | 2 | 昭和59年度富山大学並びに富山大学経営短期 | |
| 昭和58年度富山大学卒業式 学長告辞…………… | 2 | 大学部入学者選抜状況…………… | 27 |
| 関 係 法 令…………… | 4 | 昭和58年度富山大学並びに富山大学経営短期 | |
| 学 内 規 則…………… | 5 | 大学部卒業式举行…………… | 27 |
| 富山大学学則の全部改正…………… | 5 | 昭和58年度富山大学大学院並びに専攻科 | |
| 富山大学専攻科規則の制定…………… | 14 | 修了式举行…………… | 27 |
| 富山大学学則の全部改正に伴う諸規則の改正…………… | 15 | 人 事 異 動…………… | 30 |
| 富山大学教員の停年に関する規則の一部改正…………… | 16 | 学 内 諸 報…………… | 34 |
| 富山大学防火管理規則の一部改正…………… | 16 | 教育学部附属中学校長の改選…………… | 34 |
| 富山大学客員教授選考基準の一部改正…………… | 17 | 海外渡航者…………… | 34 |
| 富山大学国有財産使用規則の一部改正…………… | 17 | 退職者を囲む懇談会開催…………… | 35 |
| 富山大学国有財産取扱規則の一部改正…………… | 17 | シリーズ「富山大学、あの日あの頃」(7) | |
| 諸 会 議…………… | 19 | 〈回顧閑談〉…………… | 35 |
| 学 事…………… | 20 | 職 員 消 息…………… | 38 |
| 学位取得者…………… | 20 | 主 要 行 事…………… | 40 |
| 昭和59年度文部省在外研究員派遣予定者の決定…………… | 20 | 資 料…………… | 42 |
| 外国政府等からの留学生等の募集のお知らせ…………… | 20 | 昭和58年度卒業(修了)者数…………… | 42 |
| 昭和59年度富山大学入学試験の実施状況について…………… | 26 | 昭和59年度授業日程表…………… | 43 |
| | | 期末手当及び勤勉手当の支給日の改正について…………… | 43 |

学 長 告 辞

昭和58年度富山大学卒業式 学長告辞

本日ここに卒業証書を授与された方々は総勢 1,081名でしたが、私はこれらの諸君に対し、富山大学の名において、心からおめでとうと申し上げたいと思います。諸君は本学教職員一同の絶大な期待を一身に担って、いよいよ社会へ巣立っていかれるわけですが、諸君を受け入れる社会は目まぐるしい勢いで、刻々と移り変わりつつある状況であります。そこで恐らく諸君は、一体何を目標に生きていけばよいのかという基本的なところで、何となく不安な感じをもっておられるのではないかと思います。そんな時諸君は、何も他人の動きを気にすることはないのであって、腹を決めて自分なりの行き方をしていただきたいと思うのであります。そこで今日はこのことと関連して、私の日ごろ考えていることをお話しして、はなむけの言葉としたいと思います。

本日御卒業の諸君にとっては誠にお気の毒なことだと思うのですが、最近世の中では、近ごろの学生は氣力がない、やる氣がないと盛んに言いふらされています。諸君はまさにこういう先入感をもった人達の社会に迎え入れられるわけであります。恐らく彼らは手ぐすね引いて諸君を鍛え直してやろうなどと張り切って待っているに違いありません。ところが諸君達にしてみれば、氣力がないとか、やる氣がないとか言われても、恐らく何のことだかさっぱり分らないのではないのでしょうか。どういう状態をもって氣力があるというのか、またどういう状態をもって氣力がないというのか、これはなかなか簡単に言葉では言い尽せないことだと思います。しかし現実には諸君を受け入れる社会の側は、今や危機感にも似た決死の覚悟で毎日を過しているという状態です。毎日の新聞を見てもお分りのように、国際競争力とか、企業戦略とか、情報競争とか、まさに世の中では食うか食われるかの戦争でもやっているような言葉がポンポンと飛び出しています。従ってそこにのんびりしたやる氣のない若者がゴロゴロ入って来られては士氣に影響すると考えるのも当然だと思います。諸君もこの点はわかってやっ

て下さい。

さてそこで世の中の殺伐としたこのような現実から離れて、勝負ということだけを最終目標に置いているスポーツの世界に目を移して見ることにしましょう。私自身諸君と同じ年ごろにはスポーツに身をやつしていたので、スポーツの話をすることは気楽だし、また諸君にもわかり易いのではないかと思います。

「スポーツの世界では強い方が勝つのが当然ですが、強いということは何かという、これはなかなかむずかしい問題になります。スポーツは人間のやることで、そこにはいろいろなわながあるのです。プロ野球の王 貞治にしても、嘗ては一世一代の名選手といわれていた人ですが、長い選手生活の間には、相手に研究し尽されたり、時に自分自身が迷いに迷ってスランプに陥ったり、それはそれは大変な苦勞のしつ放しだったようです。あれだけの人も、幾度か断崖絶壁の危機に立たされたといわれています。そんな時彼を救ったのは、彼自身の創意工夫による厳しい練習、ただそれだけだったのであります。東京オリンピックの体操で個人総合優勝を果たした遠藤幸雄選手は言っています。自分が勝つためには自発的なハードトレーニングしかなかった。ハードトレーニングというのは、失敗のチャンスを減らすためのものであった。これさえ十分にこなしておけば、心配なしに、氣持を楽にして試合に臨めるのであるといっているのです。私も学生時代にボートをやって、インターハイで優勝したり、全日本で優勝したりしましたが、勝てた時はまさにハードトレーニングの連続でした。負けて口惜し涙を流したことの方が多かったかも知れませんが、振り返ってみると、負けた時は勝った時に比べて何ととっても練習の内容が充分ではありませんでした。

こうしてみますと、スポーツで勝つということは、相手を蹴落すことではないのです。自分達の努力で他のチームのレベルより抜きんでることなのです。これが本当のスポーツマンシップとかフェアプレーの精神とかいわれるものなのです。これなら相手に迷惑

をかけることはないし、また相手から恨まれることもありません。私自身、負けて相手を恨めしく思ったことはなく、自分達の非力が口惜しかっただけでした。そして努力して勝った時の喜び、これは本当のスポーツをやった者にしかわからないと思いますが、私はこれを若い時に味わったことを心から幸福だと思っています。

このように人から言われてではなく、自発的に努力することこそが、気力があるとかやる気があるとかいうことなのです。こうして他人を蹴落すのではなく、自分の積極的努力で成長していくことの大切なことは、何もスポーツに限られたことではありません。このことこそ諸君が今後社会に出て是非とも身をもって実践していただきたいことの第一の点であります。世の中ではよくあの人はできが良いとか悪いとか、あるいは頭が良いとか悪いとか言って能力の評価をしますが、そういうかたちの能力の持ち主よりも、積極的な努力家こそ最高の評価を受ける人物だと思います。真の能力というものは努力によって培われるものなのです。

スポーツの世の中ではまたチームワークということを非常に大切にします。スポーツではチーム全体としての和が勝つための根幹となっています。和して動ぜずという言葉があることは諸君も御存知のとおりであります。ここで和というと、自分の仲間に調子を合わせることだと思っていただいては困ります。チームメイトの一人一人が、自分自身の持ち前を、責任をもって実行することが真の和の精神だと思います。そのためにはそのチームの中で、チームメイト一人一人が自分自分のパートを十分に自覚する必要があります。スポーツの場合、派手な役割と、地味な役割とがあります。わが国のサッカー界の重鎮である釜本を知らない人は少ないと思いますが、釜本は最高のゴールゲッターとして天下にその名を馳せています。しかし釜本の得点は釜本一人のできるわけではありません。チーム全体が立派に連携プレーをしてはじめて釜本の得点が生れるのです。これが本当の和の成果だと思います。

諸君が社会に出てからも、この和の精神は強く求められると思いますが、その精神はスポーツの世界での和の精神といささかも変るものではないと思います。派手な立回りよりも地味な動きが大切です。特に社会人になりたてのころの仕事は、すべて縁の下の力持的なものでしょうが、諸君がその地味なパートを充分こなすことこそが、諸君の所属する社会の繁栄に結びつくということを強く自覚していただきたいと思いま

す。

さて諸君も社会へ出て何年か経つと、自分のことだけでなく、後輩の面倒もみななければならないという仕事が回ってくると思います。その場合にはどうしてもリーダーシップが求められることになるでしょう。プロ野球の名門阪急の上田監督はこう言っています。はじめてリーダーになると、選手達にハッパをかけて、何とかして皆をハッスルさせようと思うものですが、実際に人はそう簡単に思うように動くものではない。それよりもリーダー自身が、そのチームを勝たせようと必死になっているという姿を、選手達に見せつけることが大切だということです。これは要するに率先躬行しかないということです。上田監督はさらに、この率先躬行にはいろいろなやり方があることを指摘しています。上田監督には上田の個性があり、西武の広岡監督には広岡の個性があるのであって、上田監督が広岡監督のやり方の真似をしても駄目だと言っています。すなわちリーダーとなる人は、その人その人の個性を、何ら飾ることなく、丸出しにして、裸になって選手達にぶつかるといふ誠実さが大切なのです。そして最終的に選手達との間に心と心とが通うようになればしめたものだと思います。

このようなスポーツの世界でのリーダーの条件と、一般社会でのリーダーの条件も全く同じものだと思います。イギリスのサッチャー首相はリーダーの条件として次のことをあげているそうです。第1に健康とスタミナ、第2が決断力、第3は納得ずくで説得する能力、すなわち理屈だけでなく、相手の言い分もよく聞いて相手に分らせる能力、そして第4に孤独に耐える神経をあげております。このサッチャー首相の言い分は上田監督も全くそのとおりだといっており、また私自身にとっても身にしみて感ずる次第であります。

本日の諸君の卒業式に当たって私は、諸君が社会へ出てから経験するであろう幾つかのことについて、スポーツの世界を例にとって話してみました。スポーツの世界であれ、学問の世界であれ、また企業の世界であっても、諸君がそこで一人前に生きぬこうとすれば、諸君がこれまで家庭や学校で経験してきたような甘さというものは全くないものと考えていただきたい。本日私がお話ししたことは、煎じつめれば自分の個性を大切にして、その場その場で自発的に一生懸命勉強しながら仕事に励んでほしいという、ただこれだけのことを申し上げたに過ぎません。現在のような厳しい世の中を渡ってゆくのに、自分を何かつくろってみた

ころで、すぐメッキをはがされてしまいます。それよりも裸になってぶつかってみる方がよほど楽な生き方ではないでしょうか。

卒業生の諸君、最大の資本となる御自分の体をくれぐれも大切にされて大いに頑張ってください。簡単な内

容ではありますが、これをもって諸君へのはなむけの言葉とさせていただきます。

昭和59年3月24日

富山大学長 柳 田 友 道

関 係 法 令

(官報掲
載月日)

(官報掲
載月日)

政 令

- 国家公務員及び公共企業体職員に係る共済組合制度の統合等を図るための国家公務員共済組合法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係政令の整備等に関する政令(35) 3・17
- 国家公務員及び公共企業体職員に係る共済組合制度の統合に伴う国家公務員等共済組合法の長期給付の特例等に関する政令(36) 3・17
- 国立大学の大学院に置く研究科の名称及び課程を定める政令の一部を改正する政令(54) 3・30
- 国立学校設置法附則第3項の定員に付加すべき定員を定める政令(70) (号外) 4・1

省 令

- 国家公務員共済組合法施行規則等の一部を改正する省令(大蔵3) 3・17
- 通算年金通則法の規定による通算対象期間の確認に関する省令(大蔵・文部・厚生・農林水産・自治1) 3・30
- 通算年金通則法の規定による通算対象期間の確認に関する省令を廃止する省令(大蔵・文部・厚生・農林水産・運輸・郵政・自治1) 3・30
- 国立の学校における授業料その他の費用に関する省令の一部を改正する省令(文部5) 3・31
- 勤労者財産形成促進法施行規則の一部を改正する省令(労働8) 3・31
- 文部省定員規則の一部を改正する省令(文 4・1

- 部13) (号外)
- 国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令(文部14) (号外) 4・1
- 国立大学の学科及び課程並びに講座及び学科目に関する省令の一部を改正する省令(文部15) (号外) 4・1

規 則

- 人事院規則(採用試験)の一部を改正する規則(人事院8-18) 3・30
- 人事院規則(特別職)の一部を改正する規則(人事院1-5) 3・31
- 人事院規則(非常勤職員の給与)の一部を改正する規則(人事院9-1) 3・31
- 人事院規則(俸給の特別調整額)の一部を改正する規則(人事院9-17) 3・31
- 人事院規則(期末手当及び勤勉手当)の一部を改正する規則(人事院9-40) 3・31
- 人事院規則(女子教育職員等の育児休業)の一部を改正する規則(人事院11-7) 3・31

通 達

- 国立の学校における授業料その他の費用に関する省令の一部を改正する省令の制定等について(事務次官通達 昭和59年3月31日文大生第139号)

学 内 規 則

富山大学学則の全部改正

富山大学学則の全部を改正する学則を次のとおり制定する。

昭和59年3月12日

富山大学長 柳 田 友 道

富山大学学則

富山大学学則（昭和25年1月20日制定）の全部を改正する。

第1章 目 的

（目 的）

第1条 富山大学（以下「本学」という。）は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道德的及び創造的能力を展開させ、文化の進展と福祉の向上に貢献する有為な人材を育成することを目的とする。

第2章 学部、教養部及び大学院等

（学部、学科及び課程）

第2条 本学に次の学部、学科及び課程を置く。

人文学部 人文学科、語学文学科

教育学部 小学校教員養成課程、中学校教員養成課程、養護学校教員養成課程、幼稚園教員養成課程

経済学部 経済学科、経営学科、経営法学科

理 学 部 数学科、物理学科、化学科、生物学科、地球科学科

工 学 部 電気工学科、工業化学科、金属工学科、機械工学科、生産機械工学科、化学工学科、電子工学科

2 各学部に関する規則は、別に定める。

（教養部）

第3条 本学に、一般教養に関する教育を一括して行うため、教養部を置く。

2 教養部に関する規則は、別に定める。

（講座又は学科目）

第4条 各学部及び教養部の講座又は学科目は、別表第1のとおりとする。

（学生定員）

第5条 学生定員は、別表第2のとおりとする。

（大学院）

第6条 本学に大学院を置く。

2 大学院に次の研究科を置く。

理学研究科

工学研究科

3 大学院に関する規則は、別に定める。

（専攻科）

第7条 本学に次の専攻科を置く。

文学専攻科

教育専攻科

経済学専攻科

2 専攻科に関する規則は、別に定める。

（附属図書館）

第8条 本学に附属図書館を置く。

2 附属図書館に関する規則は、別に定める。

（学内共同教育研究施設）

第9条 本学に次の学内共同教育研究施設を置く。

トリチウム科学センター

2 学内共同教育研究施設に関する規則は、別に定める。

（保健管理センター）

第10条 本学に保健管理センターを置く。

2 保健管理センターに関する規則は、別に定める。

（学部附属の学校及び教育施設）

第11条 本学に次の学部附属の学校及び教育施設を置く。

教育学部 附属小学校

附属中学校

附属養護学校

附属幼稚園

附属教育実践研究指導センター

2 学部附属の学校及び教育施設に関する規則は、別

に定める。

(事務局及び学生部)

第12条 本学に事務局及び学生部を置く。

(短期大学)

第13条 本学に次の短期大学を併設する。

富山大学経営短期大学部

第3章 職員組織

(職員の種類)

第14条 本学に次の職員を置く。

| | |
|---------|---|
| 学 | 長 |
| 教 | 授 |
| 助 教 | 授 |
| 講 | 師 |
| 助 | 手 |
| 教 | 頭 |
| 教 | 諭 |
| 養 護 教 | 諭 |
| 事 務 職 員 | |
| 技 術 職 員 | |
| 教 務 職 員 | |

2 職員の職務及び定員は、学校教育法(昭和22年法律第26号)その他の法令の定めるところによる。

(学部長等)

第15条 各学部には学部長を、教養部に教養部長を置く。

2 附属図書館に館長を、トリチウム科学センターにセンター長を、保健管理センターに所長を置く。

第4章 評議会、教授会及び委員会

(評議会)

第16条 本学の運営に関する重要事項を審議するために評議会を置く。

2 評議会に関する規則は、別に定める。

(教授会)

第17条 各学部及び教養部に教授会を置く。

2 教授会に関する規則は、別に定める。

(委員会)

第18条 本学は、必要に応じ各種委員会を設ける。

2 委員会に関する規則は、別に定める。

第5章 学年、学期及び休業日

(学年)

第19条 学年は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(学期)

第20条 学年を分けて次の2学期とする。

前学期 4月1日から9月30日まで

後学期 10月1日から翌年3月31日まで

(休業日)

第21条 休業日は、次のとおりとする。

日 曜 日

国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)

に定める休日

本学創立記念日 5月31日

夏 季 休 業 7月11日から8月31日まで

冬 季 休 業 12月28日から翌年1月20日まで

春 季 休 業 3月16日から3月31日まで

2 必要がある場合は、学長は、前項の休業日を変更することができる。

3 第1項に定めるもののほか、学長は、臨時の休業日を定めることができる。

第6章 修業年限及び在学期間

(修業年限)

第22条 本学の修業年限は、4年とし、教養部にあっては1年6月、学部にあつては2年6月とする。

(在学期間)

第23条 学生は、8年を超えて在学することができない。

2 第29条第1項の定めにより入学した者は、同条第2項に定める在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えて在学することができない。

第7章 入 学

(入学の時期)

第24条 入学の時期は、学年の始めとする。ただし、再入学、編入学及び転入学については、毎学期の始めとすることができる。

(入学資格)

第25条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部大臣の指定したもの
- (4) 文部大臣が高等学校の課程に相当する課程を有するものとして指定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部大臣の指定した者
- (6) 大学入学資格検定規程(昭和26年文部省令第13号)により、文部大臣の行う大学入学資格検定に合格した者

- (7) その他本学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めたる者

(入学の出願)

第26条 本学への入学を志願する者は、入学願書に検定料及び別に定める書類を添えて願出しなければならない。

(入学者の選考)

第27条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより選考を行う。

(入学手続及び入学許可)

第28条 学長は、前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者で、指定の期日までに、所定の書類を提出するとともに、入学料を納付した者(入学料の免除を申請している者を含む。)に入学を許可する。

(再入学・編入学・転入学)

第29条 次の各号の一に該当する者は、各学部定めるところにより、当該教授会の議を経て、相当年次に入学を許可することができる。

- (1) 本学を退学した者で再び同一の学科又は課程に再入学を志願する者
- (2) 大学を卒業又は退学した者で、本学に編入学を志願する者
- (3) 他の大学に在学し、本学に転入学を志願する者
- (4) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者で、本学に編入学を志願する者

- 2 前項により入学を許可する者の既に履修した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、当該教授会において認定する。ただし、一般教育課程に係る場合には、教養部長と協議するものとする。

第8章 教育課程及び履修方法等

(授業科目)

第30条 授業科目は、一般教育科目、外国語科目、保健体育科目及び専門教育科目とし、これを必修科目と選択科目とに分ける。

(教育課程)

第31条 教育課程(以下「課程」という。)は、一般教育課程及び専門教育課程とする。

- 2 一般教育課程は、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目をもって編成し、専門教育課程は、専門教育科目をもって編成する。
- 3 一般教育課程における授業は教養部が、専門教育課程における授業は各学部がそれぞれ行う。

(履修方法)

第32条 授業科目の履修方法並びに課程の修了認定については、各学部及び教養部の定めるところによる。

(他学部における授業科目の履修)

第33条 学部において、教育上有益と認めるときは、他の学部との協議に基づき、学生に当該学部の授業科目を履修させることができる。

- 2 前項により修得した単位については、課程修了に要する修得単位として認定することができる。

(他の大学又は外国の大学における授業科目の履修等)

第34条 本学が教育上有益と認めるときは、他の大学(短期大学を含む。)又は外国の大学(短期大学を含む。)との協議に基づき、学生に当該大学の授業科目を履修させることができる。

- 2 前項により学生が当該大学において修得した単位は、30単位を限度として、当該学部又は教養部の定めるところにより、課程修了に要する修得単位として認定することができる。

第35条 大学(短期大学を含む。)又は外国の大学(短期大学を含む。)を卒業又は退学し、新たに本学の第1年次に入学した者の当該大学における一般教育科目、外国語科目又は保健体育科目の既修得単位については、教育上有益と認めるときは、30単位を限度として本学において修得したものとして認定することができる。この場合において、第22条に定める修業年限の短縮は行わない。

- 2 前項に定めるもののほか、単位の認定等に関しては別に定める。

(単位計算方法)

第36条 各授業科目の単位数は、1単位の履修時間を教室内及び教室外を合わせて45時間とし、次の基準によるものとする。

- (1) 講義については、教室内における1時間の講義に対して教室外における2時間の準備のための学修を必要とするものとし、15時間の講義をもって1単位とする。ただし、教室外の準備のための学修が基準どおりできない事情があるとき又は教育効果を考慮して必要があるときは、1時間半又は2時間の講義に対してそれぞれ教室外における1時間半又は1時間の準備のための学修を必要とするものとし、22時間半又は30時間の講義をもって1単位とすることができる。
- (2) 演習については、教室内における2時間の演習

に対して教室外における1時間の準備のための学修を必要とするものとし、30時間の演習をもって1単位とする。ただし、授業科目の種類によっては、教室外の準備のための学修が基準どおりできない事情があるとき又は教育効果を考慮して必要があるときは、1時間の演習に対して教室外における2時間の準備のための学修を必要とするものとし、15時間の演習をもって1単位とすることができる。

- (3) 実験、実習及び実技等の授業については、学修は、すべて実験室、実習場等で行われるものとし、45時間の実験又は実習をもって1単位とする。
(単位の授与)

第37条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。
(成績)

第38条 授業科目の試験の成績は、優、良、可及び不可の評語をもって表し、可以上を合格とする。

第9章 退学、休学、留学、転学及び除籍 (退学)

第39条 退学しようとする者は、その理由を付し当該学部長又は教養部長を経て、学長の許可を受けなければならない。
(休学)

第40条 疾病その他特別の理由により3月以上修学することができない者は、当該学部長又は教養部長を経て、学長の許可を受けて休学することができる。ただし、疾病の場合には、医師の診断書を添付しなければならない。

第41条 疾病のため修学することが適当でないと認められる者については、当該教授会の議を経て、学長は休学を命ずることができる。
(休学期間)

第42条 引き続いて休学できる期間は、1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、1年を限度として当該期間の延長を認めることができる。

2 休学期間は、通算して4年を超えることができない。

3 休学期間は、第23条及び第48条に定める在学期間に算入しない。
(復学)

第43条 休学期間中にその理由が消滅し復学しようとする者は、当該学部長又は教養部長を経て、学長の許可を受けなければならない。

(留学)

第44条 外国の大学（短期大学を含む。）に留学しようとする者は、その理由を付し当該学部長又は教養部長を経て、学長の許可を受けなければならない。

2 前項の許可を受けて留学した期間は、第48条に定める在学期間に含めることができる。

(転学部・転学科)

第45条 他の学部又は同一学部の他学科に転ずることを願い出た者については、選考の上、許可することができる。

(他大学への入学又は転学)

第46条 他の大学に入学又は転学を志願する者は、あらかじめその理由を付し、当該学部長又は教養部長を経て、学長の許可を受けなければならない。

(除籍)

第47条 次の各号の一に該当する者は、当該教授会の議を経て、学長が除籍する。

- (1) 入学料の免除を願い出て許可されなかった者又は入学料の半額を免除された者で、納付すべき入学料を所定の期日までに納付しない者
- (2) 授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- (3) 第23条に定める在学期間を超えた者
- (4) 第42条第1項及び第2項に定める休学期間を超えてなお修学できない者
- (5) 長期間にわたり行方不明の者

第10章 卒業及び学士号

(卒業の認定及び卒業証書の授与)

第48条 本学に4年以上在学し、所定の単位を修得した者は、当該教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

- 2 卒業を認定する時期は、原則として学年末とする。
- 3 学長は、卒業を認定した者に対して、卒業証書を授与する。

(学士の称号)

第49条 卒業した者は、次の区分に従い、学士と称することができる。

| | |
|------|------|
| 人文学部 | 文学士 |
| 教育学部 | 教育学士 |
| 経済学部 | 経済学士 |
| 理学部 | 理学士 |
| 工学部 | 工学士 |

第11章 教員免許状

(教員免許状)

第50条 教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）に定める所要の単位を修得しなければならない。

2 本学の学部の学科等において当該所要資格を取得できる教員の免許状の種類は、別表第3のとおりとする。

第12章 賞 罰

（表彰）

第51条 学生として表彰に値する行為があった者は、当該教授会及び評議会の議を経て、学長が表彰することができる。

（懲戒）

第52条 本学の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者は、当該教授会及び評議会の議を経て、学長が懲戒する。

2 前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行うことができる。

- (1) 性行不良で改善の見込がない者
- (2) 正当の理由がなくて出席常でない者
- (3) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

4 停学期間は、第48条に定める在学期間に算入しない。ただし、停学の期間が31日を超えないときは、当該教授会の議を経て、在学期間に算入することができる。

第13章 寄宿舍及び厚生施設

（寄宿舍）

第53条 本学に寄宿舍を置く。

2 寄宿舍に関する規則は、別に定める。

（厚生施設）

第54条 本学に厚生施設を設ける。

2 厚生施設に関する規則は、別に定める。

第14章 研究生、聴講生、特別聴講学生

及び外国人留学生

（研究生）

第55条 本学において、特定の専門事項について研究することを志願する者があるときは、教育研究に支障のない場合に限り、当該教授会において選考の上、研究生として入学を許可することができる。

2 研究生を志願することのできる者は、大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められ

た者とする。

3 研究期間は、1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、その期間を更新することができる。

4 研究生の入学の時期は、学年始めとする。ただし、特別の理由がある場合は、この限りでない。

（聴講生）

第56条 本学において、特定の授業科目を聴講することを志願する者があるときは、教育に支障のない場合に限り、当該教授会において選考の上、聴講生として入学を許可することができる。

2 聴講生を志願することのできる者は、第25条の各号の一に該当する者とする。

3 聴講生の入学の時期は、学期の始めとする。

（特別聴講学生）

第57条 他の大学（短期大学を含む。）又は外国の大学（短期大学を含む。）の学生で、本学において授業科目を履修する者があるときは、当該大学との協議に基づき、教授会の議を経て、特別聴講学生として入学を許可することができる。

2 特別聴講学生の入学の時期は、学期の始めとする。ただし、特別の理由がある場合は、この限りでない。

（外国人留学生）

第58条 外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。

2 外国人留学生は、定員外とする。

（研究生等に関するその他の事項）

第59条 研究生、聴講生、特別聴講学生及び外国人留学生に関し必要な事項は別に定める。

第15章 検定料、入学料、授業料及び寄宿料

（授業料等の額及び徴収方法）

第60条 検定料、入学料、授業料及び寄宿料の額並びに徴収方法は、国立の学校における授業料その他の費用に関する省令（昭和36年文部省令第9号）の定めるところによる。

（入学料、授業料及び寄宿料の免除等）

第61条 経済的理由によって納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められるとき又はその他やむを得ない事情があると認められるときは、別に定めるところにより入学料、授業料及び寄宿料の全部若しくは一部を免除し、又は入学料及び授業料の徴収を猶予することができる。

（研究生、聴講生及び特別聴講学生の授業料等）

第62条 研究生、聴講生及び特別聴講学生の検定料、入学料及び授業料の額は、別表第4のとおりとする。

- 2 研究生、聴講生及び特別聴講学生（国立大学の学生を除く。）の授業料については、それぞれの在学予定期間に応じ、3月分又は6月分に相当する額を当該期間における当初の月に納付しなければならない。ただし、在学予定期間が3月未満又は6月未満であるときは、その期間分に相当する額を当該期間における当初の月に納付しなければならない。

（納付した授業料等）

第63条 納付した検定料、入学料、授業料及び寄宿料は返付しない。

第16章 公 開 講 座

（公開講座）

第64条 本学の教育・研究を広く社会に開放し、地域社会の教育文化の向上に資するため、本学に公開講座を開設することができる。

- 2 公開講座に関する規則は、別に定める。

第17章 補 則

（学生に関する規則）

第65条 この学則に定めるもののほか、学生に関する規則は、別に定める。

別表第1

人文学部

人文学科

哲学

哲学史

日本史学

東洋史学

西洋史学

考古学

人文地理学

文化人類学

言語学

文化構造論

語学文学科

国語学

国文学

朝鮮語・朝鮮文学

中国語学

中国文学

英語学

英文学

アメリカ文学

ドイツ語学

ドイツ文学

ロシア語・ロシア文学

比較文学

教育学部

小学校教員養成課程・中学校教員養成課程・養護学校教員養成課程・幼稚園教員養成課程

国語学

国文学

書道

国語科教育

歴史学

地理学

法律学

社会学

経済学

社会科教育

代数学及び幾何学

解析学及び応用数学

数学科教育

物理学

化学

生物学

地学

理科教育

声楽

器楽

作曲

音楽科教育

絵画

彫塑

構成

美術理論・美術史

美術科教育

体育実技

生理学及び衛生学

学校保健

体育理論・体育史

保健体育科教育

木材加工

電気

機械

食物学

被服学

| | |
|---------|----------------|
| 家庭管理 | 社会法 |
| 家庭科教育 | 国際取引法 |
| 農業 | 理学部 |
| 英語学 | 数学科 |
| 英米文学 | △代数学及び幾何学 |
| 英語科教育 | △解析学 |
| 障害児教育 | △数理統計学 |
| 障害児心理 | △応用解析学及び電子計算機論 |
| 障害児病理 | 物理学科 |
| 幼児教育 | △固体物理学 |
| 幼児心理 | △量子物理学 |
| 保育内容の研究 | △結晶物理学 |
| 教育学 | △電波物理学 |
| 教育史 | △レーザー物理学 |
| 教育制度 | 化学科 |
| 教育社会学 | △物理化学 |
| 教育心理学 | △構造化学 |
| 発達心理学 | △分析化学 |
| 経済学部 | △有機化学 |
| 経済学科 | △天然物化学 |
| 経済原論第1 | 生物学科 |
| 経済原論第2 | △形態学 |
| 経済史 | △生理学 |
| 経済政策 | △細胞生物学 |
| 金融論 | △環境生物学 |
| 財政学 | 地球科学科 |
| 統計学 | △地殻構造学 |
| 経済地理学 | △地殻進化学 |
| 社会学 | △陸水学 |
| 経営学科 | △雪水学 |
| 経営学 | 工学部 |
| 流通論 | 電気工学科 |
| 財務会計 | △電気理論 |
| 管理会計 | △電気機器学 |
| 経営工学 | △電力工学 |
| 経営環境論 | △通信工学 |
| 国際経営論 | △制御工学 |
| 人事管理論 | 工業化学科 |
| 経営実務論 | △有機工業化学 |
| 経営法学科 | △有機合成化学 |
| 基礎法 | △無機工業化学 |
| 財産法 | △応用物理化学 |
| 企業関係法 | △環境化学 |
| 倒産関係法 | 金属工学科 |

△金属材料学

△金属加工学

△鉄冶金学

△非鉄冶金学

機械工学科

△材料力学

△機械力学

△流体工学

△熱工学

△動力熱工学

生産機械工学科

△切削加工

△工業計測

△塑性加工

△制御機器

化学工学科

△反応工学

△拡散単位操作

△機械の単位操作

△輸送現象

電子工学科

△基礎電子工学

△応用電子工学

△電子素子工学

△電子回路工学

(共通講座)

△応用物理学

△応用数学

△情報処理

教養部

哲学

倫理学

心理学

歴史学

文学

音楽

美術

法学

経済学

統計学

政治学

地理学

社会学

数学

物理学

化学

生物学

地学

環境科学

英語

ドイツ語

フランス語

中国語

ラテン語

保健体育

備考 △印を付するものは修士講座である。

別表第2

| 学部 | 学 科 等 | 入学定員 | 総定員 |
|-----|---------------|--------|--------|
| 人文 | 人 文 学 科 | 90名 | 350名 |
| 学部 | 語 学 文 学 科 | 80名 | 320名 |
| 教育 | 小学校教員養成課程 | 140名 | 560名 |
| | 中学校教員養成課程 | 50名 | 200名 |
| | 養護学校教員養成課程 | 20名 | 80名 |
| | 幼稚園教員養成課程 | 30名 | 120名 |
| 経済 | 経 済 学 科 | 120名 | 480名 |
| | 経 営 学 科 | 120名 | 480名 |
| | 経 営 法 学 科 | 60名 | 240名 |
| 理 | 数 学 学 科 | 40名 | 160名 |
| | 物 理 学 科 | 40名 | 160名 |
| | 化 学 学 科 | 40名 | 160名 |
| | 生 物 学 科 | 30名 | 120名 |
| | 地 球 科 学 科 | 30名 | 120名 |
| 工 | 電 気 工 学 科 | 50名 | 200名 |
| | 工 業 化 学 科 | 45名 | 180名 |
| | 金 属 工 学 科 | 40名 | 160名 |
| | 機 械 工 学 科 | 50名 | 200名 |
| | 生 産 機 械 工 学 科 | 40名 | 160名 |
| | 化 学 工 学 科 | 40名 | 160名 |
| | 電 子 工 学 科 | 40名 | 160名 |
| 合 計 | | 1,195名 | 4,770名 |

別表第3

| 学部 | 学 科 等 | 教員の免許状の種類（免許教科） | |
|------|--|-------------------------------|--|
| 人文学部 | 人文学科 | 中学校教諭1級普通免許状 高等学校教諭2級普通免許状 | （社会） |
| | 語文学科 | 中学校教諭1級普通免許状 高等学校教諭2級普通免許状 | （国語，中国語，英語，ドイツ語） |
| 教育学部 | 小学校教員養成課程 | 小学校教諭1級普通免許状 中学校教諭1級普通免許状 | （国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，保健，家庭，職業，職業指導，英語，技術）・ （国語，社会，数学，理科，音楽，美術，工芸，書道，保健体育，保健，家庭，農業，職業指導，英語） |
| | 中学校教員養成課程 | 高等学校教諭2級普通免許状 | |
| | 養護学校教員養成課程 幼稚園教員養成課程 | 養護学校教諭1級普通免許状 幼稚園教諭1級普通免許状 | |
| 経済学部 | 経済学科 | 中学校教諭1級普通免許状 高等学校教諭2級普通免許状 | （社会） （社会，商業） |
| | 経営学科 | 中学校教諭1級普通免許状 高等学校教諭2級普通免許状 | （社会） （社会，商業） |
| | 経営法学科 | 中学校教諭1級普通免許状 高等学校教諭2級普通免許状 | （社会） |
| 理学部 | 数学科 | 中学校教諭1級普通免許状 高等学校教諭2級普通免許状 | （数学） |
| | 物理学科 | 中学校教諭1級普通免許状 | （理科） |
| | 生物学科 地球科学科 | 高等学校教諭2級普通免許状 | |
| 工学部 | 電気工学科 金属工学科 機械工学科 生産機械工学科 化学工学科 電子工学科 | 中学校教諭1級普通免許状 高等学校教諭2級普通免許状 | （職業） （工業） |

別表第4

| 区 分 | 検 定 料 | 入 学 料 | 授 業 料 |
|-------------|--------|---------|-----------------------------------|
| 研 究 生 | 5,600円 | 36,000円 | 月 額 12,000円 |
| 聴 講 生 | 5,600円 | 12,000円 | 1 単位ごとに 6,000円 |
| 特別聴講 学 生 | 徴収しない。 | 徴収しない。 | 1 単位ごとに 6,000円 （国立大学の場合徴収しない。） |

附 則

▶富山大学学則の改正理由

- この学則は，昭和59年4月1日から施行する。 現行学則の不備な点を整備するとともに，学則全般
 - この学則の施行日前に在学している学生について の見直しを図り，併せて体裁を整えるため。
- は，なお従前の例による。

富山大学専攻科規則の制定

富山大学専攻科規則を次のとおり制定する。

昭和59年3月12日

富山大学長 柳 田 友 道

富山大学専攻科規則

(趣 旨)

第1条 この規則は、富山大学学則（以下「学則」という。）第7条第2項の規定に基づき、富山大学専攻科（以下「専攻科」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(名称、専攻及び学生定員)

第2条 専攻科の名称、専攻及び学生定員は、次のとおりとする。

文学専攻科 文学専攻 10名

教育専攻科 教育専攻 5名

経済学専攻科 経理経営専攻 10名

(修業年限)

第3条 専攻科の修業年限は、1年とする。

(在学期間)

第4条 学生は、2年を超えて在学することができない。

(入学資格)

第5条 専攻科に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 大学を卒業した者

(2) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者

(3) 文部大臣の指定した者

(4) 専攻科において、第1号と同等以上の学力があると認めた者

(教育課程及び履修方法)

第6条 専攻科の教育課程及び履修方法については、各専攻科において別に定める。

(休学期間)

第7条 休学期間は、通算して1年を超えることができない。

2 休学期間は、第4条及び次条に規定する在学期間に算入しない。

(課程修了)

第8条 専攻科に1年以上在学し、30単位以上の単位を修得した者には、基礎となる学部の教授会の議を経て、学長は修了証書を授与する。

(教員免許状)

第9条 教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）に定める所要の単位を修得したときに取得できる教育職員免許状の種類及び免許教科は、次表のとおりとする。

| 専攻科 | 専 攻 | 免許状の種類 | 免許教科 |
|--------|--------|-------------------|-------------------|
| 文学専攻科 | 文学専攻 | 高等学校教諭 1級普通免許状 | 国語、社会、 英語、ドイツ語 |
| 経済学専攻科 | 経理経営専攻 | 高等学校教諭 1級普通免許状 | 商 業 |

(授業料等の額及び徴収方法)

第10条 検定料、入学料及び授業料の額並びに徴収方法は、国立の学校における授業料その他の費用に関する省令（昭和36年文部省令第9号）の定めるところによる。

(準用規定)

第11条 この規則に定めるもののほか、専攻科に関し必要な事項は、学則の規定を準用する。

附 則

1 この規則は、昭和59年4月1日から施行する。

2 この規則の施行日前に在学している学生については、なお従前の例による。

▶富山大学専攻科規則の制定理由

本学学則の全部改正で専攻科に係る事項が別に定められることになったほか、所要の整備を行うため。



富山大学学則の全部改正に伴う諸規則の改正

富山大学学則の全部改正に伴う諸規則を改正する規則を次のとおり制定する。

昭和59年3月12日

富山大学長 柳 田 友 道

富山大学学則の全部改正に伴う諸規則を改正する規則

(教養部運営協議会規則の一部改正)

第1条 富山大学教養部運営協議会規則(昭和42年4月18日制定)の一部を次のように改正する。

第1条中「第48条」を「第18条第2項」に改める。

(施設整備委員会規則の一部改正)

第2条 富山大学施設整備委員会規則(昭和45年2月16日制定)の一部を次のように改正する。

第1条中「第49条」を「第18条第2項」に改める。

(公開講座規則の一部改正)

第3条 富山大学公開講座規則(昭和57年11月12日制定)の一部を次のように改正する。

第1条中「第71条」を「第64条第2項」に改める。

(学寮規則の一部改正)

第4条 富山大学学寮規則(昭和40年7月30日制定)の一部を次のように改正する。

第1条中「第72条」を「第53条第2項」に改める。

(人文学部規則の一部改正)

第5条 富山大学人文学部規則(昭和52年5月16日制定)の一部を次のように改正する。

第1条中「第4条第2項」を「第2条第2項」に改める。

(人文学部教授会規則の一部改正)

第6条 富山大学人文学部教授会規則(昭和52年5月16日制定)の一部を次のように改正する。

第1条中「第47条」を「第17条第2項」に改める。

(教育学部規則の一部改正)

第7条 富山大学教育学部規則(昭和27年4月18日制定)の一部を次のように改正する。

第6条の2第1項中「第12条の2」を「第34条」に改め、第19条の2第1項中「第70条の2」を「第57条」に改める。

(教育学部附属教育実践研究指導センター規則の一部改正)

第8条 富山大学教育学部附属教育実践研究指導センター規則(昭和57年4月16日制定)の一部を次のように改正する。

第1条中「第78条第2項」を「第11条第2項」に

改める。

(経済学部規則の一部改正)

第9条 富山大学経済学部規則(昭和50年6月27日制定)の一部を次のように改正する。

第1条中「第4条第2項」を「第2条第2項」に改める。

(理学部規則の一部改正)

第10条 富山大学理学部規則(昭和52年5月16日制定)の一部を次のように改正する。

第1条中「第4条第2項」を「第2条第2項」に改め、第9条の2第1項中「第12条の2」を「第34条」に改め、第22条の2第1項中「第70条の2」を「第57条」に改める。

(理学部教授会規則の一部改正)

第11条 富山大学理学部教授会規則(昭和52年5月16日制定)の一部を次のように改正する。

第1条中「第47条」を「第17条第2項」に改める。

(工学部規則の一部改正)

第12条 富山大学工学部規則(昭和25年12月15日制定)の一部を次のように改正する。

第11条中「第67条第1項」を「第56条」に改め、第12条中「第68条第1項」を「第55条」に改める。

(教養部規則の一部改正)

第13条 富山大学教養部規則(昭和42年4月1日制定)の一部を次のように改正する。

第1条中「第5条第2項」を「第3条第2項」に改める。

(大学院学則の一部改正)

第14条 富山大学大学院学則(昭和53年4月1日制定)の一部を次のように改正する。

第1条中「第7条第2項」を「第6条第3項」に改める。

(附属図書館規則の一部改正)

第15条 富山大学附属図書館規則(昭和39年9月21日制定)の一部を次のように改正する。

第1条中「第77条第2項」を「第8条第2項」に改める。

(トリチウム科学センター規則の一部改正)

第16条 富山大学トリチウム科学センター規則（昭和55年4月18日制定）の一部を次のように改正する。

第1条中「第77条の2第2項」を「第9条第2項」に改める。

附 則

この規則は、昭和59年4月1日から施行する。

▶富山大学学則の全部改正に伴う諸規則を改正する規則の制定理由

本学学則が全面的に改正されたことに伴い、関連諸規則における学則の引用条項を改めるため。

富山大学教員の停年に関する規則の一部改正

富山大学教員の停年に関する規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

昭和59年3月12日

富山大学長 柳 田 友 道

富山大学教員の停年に関する規則の一部を改正する規則

富山大学教員の停年に関する規則（昭和32年2月8日制定）の一部を次のように改正する。

附則（昭和32年2月8日）第3項を削る。

附 則

この規則は、昭和60年3月31日から施行する。

▶富山大学教員の停年に関する規則の改正理由

昭和56年法律第77号により国家公務員法の一部が改正され、定年に関する規定が定められ、昭和60年3月31日から施行されることとなった。

このことに伴い、本学の教職員の停年退職の日を統

一するため、従来「富山大学教員の停年に関する規則（昭和32年2月8日制定）」の附則第3項に定めた停年退職の日の取扱いについての読替規定を、廃止しようとするものである。

富山大学防火管理規則の一部改正

富山大学防火管理規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

昭和59年3月23日

富山大学長 柳 田 友 道

富山大学防火管理規則の一部を改正する規則

富山大学防火管理規則（昭和39年9月18日制定）の一部を次のように改正する。

第2条に次の1項を加える。

5 この規則において「防火管理者等」とは、防火管理者及び火元責任者をいう。

第6条の見出しを「(防火管理者等)」に改め、第1項中「各部局」を「各部局及び附属学校並びに寄宿舍」に改め、第3項中「及び」を「又は」に、「当該監守区域について」を「当該監守区域の火元責任者となり、」に改める。

第7条の見出しを「(防火管理者等の任命)」に改め、同条に次の1項を加える。

2 前条第3項の火元責任者は、部局長が任命する。

第10条第1項に次のただし書を加える。

ただし、学長が防火管理上必要と認めた場合には、複数部局で委員会を設置することができる。

第11条第1項に次のただし書を加える。

ただし、複数部局で消防隊を編成しようとするときは、関係部局長が協議するものとする。

第13条第3号中「防火管理者、監守者及び補助監守者（以下「防火管理者等」という。）を「防火管理者等」に改める。

第14条中「取扱規則第11条に規定する事務のほか、」を削る。

第21条第2項中「学生寮に対して必要な」を「寄宿舍の」に改め、同条に次の1項を加える。

3 附属学校長は、教育学部長の承認を得て、附属学校の防火管理に関する内規を定めることができる。

附 則

この規則は、昭和59年 3 月23日から施行する。

▶ 富山大学防火管理規則の改正理由

附属学校及び寄宿舎に防火管理者を置き、また火元責任者を規定し防火管理体制の充実を図るため。

富山大学客員教授選考基準の一部改正

富山大学客員教授選考基準の一部を改正する基準を次のとおり制定する。

昭和59年 3 月23日

富山大学長 柳 田 友 道

富山大学客員教授選考基準の一部を改正する基準

富山大学客員教授選考基準(昭和58年 6 月17日制定) 年10月 1 日から適用する。

の一部を次のように改正する。

第 1 条中「第30条の 3」を「第30条の 4」に改める。

▶ 富山大学客員教授選考基準の改正理由

第 2 条第 2 号中「第30条の 2」を「第30条の 3」に改める。

国立学校設置法施行規則の一部改正(昭和58年10月 1 日文部省令第26号)が行われ、該当条項が繰り下がったため。

附 則

この基準は、昭和59年 3 月23日から施行し、昭和58

富山大学国有財産使用規則の一部改正

富山大学国有財産使用規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

昭和59年 3 月23日

富山大学長 柳 田 友 道

富山大学国有財産使用規則の一部を改正する規則

富山大学国有財産使用規則(昭和33年 9 月12日制定) することができる。」に改める。

の一部を次のように改正する。

第 2 条中「又は」を「及び」に改める。

附 則

この規則は、昭和59年 3 月23日から施行する。

第 4 条中「職員ホール」を「職員会館」に改める。

第 7 条中「目的に使用させる場合は、これを無償とするものとする。」を「使用については、これを無償と

▶ 富山大学国有財産使用規則の改正理由
字句の整備を図るため。

富山大学国有財産取扱規則の一部改正

富山大学国有財産取扱規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

昭和59年 3 月23日

富山大学長 柳 田 友 道

富山大学国有財産取扱規則の一部を改正する規則

富山大学国有財産取扱規則(昭和33年 3 月 7 日制定) の一部を次のように改正する。

第 3 条中「経理部」を「経理部長」に改める。

第 4 条の見出しを「(国有財産事務の補助執行)」に改め、第 1 項を次のように改める。

第 4 条 学長は、国有財産について次の各号に掲げる事務を部局長に補助執行させるものとする。

- (1) 法令及び予算の定めるところに従い、国有財産を適切に取得、移築、改築、所管換、所属替、用途変更及び用途廃止すること。
- (2) 国有財産をその用途及び目的に応じ、常に良好な状態に維持し、保存し、これを最も効率的に運用すること。
- (3) 国有財産の現状を常にはあくし、正確に記録す

ること。

(4) 国有財産の利用状況を考慮し、適切に処分すること。

(5) 前各号に掲げるもののほか、国有財産を適切に管理及び処分すること。

同条に次の1項を加える。

3 部局長は、補助執行を命ぜられた当該部局に所属する国有財産について、所属職員を指揮監督して、第1項に掲げる事務を行わなければならない。

第5条（見出しを除く。）を次のように改める。

第5条 部局長は、当該部局に所属する国有財産について、これを保全し、効率的に運用するため、次の各号に掲げる事務の処理に努めなければならない。

(1) 教育及び研究に支障をきたすこととなる国有財産の用途及び目的の阻害が発生し、又は発生するおそれがあると認められる場合における是正の措置に関すること。

(2) 国有財産の火災の防止に関すること。

(3) 国有財産の盗難の防止に関すること。

(4) 電気、ガス、給排水、避雷、エレベーター等の維持に関すること。

(5) 国有財産監守者（以下「監守者」という。）及び国有財産補助監守者（以下「補助監守者」という。）の指定に関すること。

(6) 国有財産の監守計画の作成及び実施に関すること。

(7) 国有財産の適正な使用の確保に関すること。

(8) 前各号に掲げるものを除くほか、国有財産の維持、保存及び運用に係る事務の補助執行について必要と認める事項に関すること。

第8条（見出しを含む。）中「使用並びに」を削る。

第9条中「国有財産監守者」を「監守者」に、「国有財産補助監守者」を「補助監守者」に改める。

第10条中「文部省取扱規程」を「文部省所管国有財産取扱規程（昭和32年7月1日文部省訓令。以下「文部省取扱規程」という。）に改める。

第11条第3号中「管理状況等」を「管理状況」に改め、第5号中「消火器具」を「消防用設備等」に改め、同条中第13号を第14号と、第12号を第13号とし、第11号の次に次の1号を加える。

(12) エレベーター等の点検

第12条第1項中「毎年3月末日現在において、次の各号に掲げる国有財産の状況について部局長に報告しなければならない。」を「次の各号に掲げる国有財産の

状況について異状を認めたときは、直ちに部局長に報告しなければならない。」に改め、同項第4号中「消火器具」を「消防用設備等」に改め、同項第11号を第12号とし、第10号の次に次の1号を加える。

(11) エレベーター等の点検

第13条中「官名、職名、等級、号棒及び氏名」を「官職、氏名」に改める。

第15条中「船舶を購入しようとする」を「船舶の購入の必要があると認める」に改める。

第16条中「寄付を受けようとする」を「寄付を受ける必要があると認める」に改める。

第17条中「しようとする」を「の必要があると認める」に改める。

第19条中「用途を変更しようとするとき又は用途を廃止しようとする」を「用途変更又は用途廃止の必要があると認める」に改める。

第22条中「部局において、」を「部局長は、」に、「所属国有財産を滅失し損したときは、部局長は、」を「所属国有財産を滅失し損したときは、」に改める。

第23条及び第24条中「部局において、」を「部局長は、」に改める。

第25条を削り、第24条の次に次の1条を加える。

（庁舎等使用現況及び見込報告書）

第25条 部局長は、毎年度末における部局の用に供する財産の使用現況及び見込みについて、別に定める様式により当該報告書を作成し、翌年度の4月10日までに学長に提出しなければならない。

2 部局長は、前項の報告書の内容を変更する必要があると認めるときは、その都度、その変更事項及び事由を記載した書類を学長に提出しなければならない。

附 則

この規則は、昭和59年3月23日から施行する。

▶富山大学国有財産取扱規則の改正理由

国有財産事務の補助執行を明確にするとともに規則の整備を図るため。

諸 会 議

昭和59年公開講座第4回委員会（3月9日）

（審議事項）

- (1)昭和59年度公開講座の実施計画について

昭和58年度第7回富山大学廃水処理室運営委員会専門委員会（3月10日）

（審議事項）

- (1)廃水処理施設の計画（継続）について

昭和58年度第6回大学院委員会（3月12日）

（審議事項）

- (1)昭和58年度富山大学大学院理学研究科(修士課程)及び工学研究科(修士課程)修了者の認定について

昭和58年度第12回評議会（3月12日）

（報告事項）

- (1)昭和58年度富山大学大学院理学研究科(修士課程)及び工学研究科(修士課程)修了者の認定について
(2)教官人事について（教育学部、工学部）
(3)学生の動向について
(4)学生の懲戒について（教養部）

（審議事項）

- (1)昭和59年度富山大学入学者選抜試験合格者の判定について
(2)昭和58年度卒業者及び修了者の認定について
(3)富山大学学則の全部改正（案）について（継続審議事項）

- (4)富山大学専攻科規則の制定（案）について（継続審議事項）

- (5)富山大学学則の全部改正に伴う諸規則を改正する規則（案）について

- (6)富山大学教員の停年に関する規則の一部改正（案）について

- (7)今後における国立大学の臨時増募の取扱いについて（継続審議事項）

- (8)学生の除籍について（教養部）

昭和58年度第7回入学者選抜方法研究委員会専門委員会（3月15日）

（審議事項）

- (1)入学者選抜方法の改善に伴う昭和58年度以降の調査研究事項について

昭和58年度第1回国際交流委員会（3月23日）

（審議事項）

- (1)委員会の運営について
(2)中国との学術国際交流について

昭和58年度第6回事務協議会（3月29日）

（審議事項）

- (1)内線電話の取扱いについて
(2)清掃業務の集中化について
(3)宿日直勤務について

◎ 退庁、退室の際には、電気、ガスの消し忘れ、タバコの吸殻の後始末に十分注意し、火災の予防に心がけましょう!!

◎ 電気、ガス、水の省エネ・省資源に協力しましょう!!

◎ 構内での自動車等の運転は、教育・研究に支障を来さないよう安全運転に努め定められた交通方法、歩行者の安全及び騒音防止に努めましょう!!

学 事

学 位 取 得 者

取得者 理学部 助手 野口宗憲
取得学位 理学博士（九州大学）
取得年月日 昭和58年11月25日

学位論文名 Control of the Orientation of Cilia
by Adenosinetriphosphate and Divalent Cations in Triton-Glycerol-
Extracted Paramecium caudatum
（アデノシン三リン酸と二価陽イオンによるトリトン・グリセリン処理ゾウリムシの繊毛方向の制御）

昭和59年度 文部省在外研究員派遣予定者の決定

| 種 類 | 部 局 | 職 | 氏 名 | 主たる滞在地名及び 当該滞在地の属する国名 | 調 査 研 究 題 目 | 派 遣 期 間 |
|-------|------|-----|---------|-------------------------------------|----------------------|------------|
| 長期(甲) | 人文学部 | 助教授 | 矢 沢 英 一 | モスクワ (ソビエト連邦) | チューホフ研究 | 10月 |
| | 教育学部 | 教 授 | 田 中 晋 | マジソン (アメリカ合衆国) カルガリー (カナダ) | 甲殻類枝角目の分類及び生態学的研究 | 10 |
| 長期(乙) | " | 助教授 | 渡 邊 信 | コロンバス (アメリカ合衆国) | 単細胞緑藻の微細構造の研究 | 12 |
| | 理学部 | " | 川 崎 一 朗 | ボールダー (アメリカ合衆国) | 地球内部大規模異方性の研究 | 12 |
| 短 期 | " | " | 尾 島 十 郎 | ケルン (ドイツ連邦共和国) | 大環状共役化合物の合成的研究 | 2 |
| | 工学部 | " | 山 口 信 吉 | ウイニペグ (カナダ) | 貯蔵過程における穀類層内の熱と物質の移動 | 2 |

外国政府等からの留学生等の募集のお知らせ

毎年、外国の政府・研究機関・団体等から留学生・研究員等の募集が数多く行われ本学にも多くの通知が入っていますが、参考までに昭和58年度に通知のあったものをまとめてみました。

なお、これらの募集通知については、毎年一定しているものでなく、その年度によって若干の変更ある

いは募集しないものもあり、またこの外にも各種財団等から募集がある場合もありますので、この点お含みおきの上参考にして下さい。

募集要項等の詳細は、各部局の庶務（総務）係にお問い合わせ下さい。

| 関係国 | 名 称 | 募集人員 | 専 攻 分 野 | 応 募 資 格 (共通事項) ・日本国籍を有する者 ・十分な外国語の能力を有する者 ・心身ともに健全な者 | 待 遇 | 関 係 機 関 (募集通知時期) |
|--|-------------------|-------|---|--|---|------------------------------|
| アイルランド | アイルランド政府奨学金留学生 | 1 名 | 制限なし | ・大学卒業者 | ・期間 9 月 ・奨学金 総額 250ポンド ・授業料 | (財)日本国際教育協会留学情報センター (2 月) |
| アジア諸国 (インドネシア、パキスタン、スリランカ、インドネシア、大韓民国、フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、モンゴル、コトエ、中東、トルコ、香港) | アジア諸国等派遣留学生 | 9 名程度 | 留学対象国の言語、歴史、文化又は社会の分野 | ・大学院博士課程若しくは修士課程に在学している者又は大学を卒業後研究に従事している者 ・35歳未満の者 | ・期間 2 年 ・奨学金 月額 100,000円 ・一時金 年額 30,000円 ・往復航空運賃 | 文部省学術国際局ユネスコ国際部留学生課 (2 月) |
| アメリカ合衆国 | N I H 奨励研究員 | 6 名 | 医学、生物学、生化学、生理学、歯学、薬学、獣医学等 | ・博士号所有者 ・35歳以下の者 | ・期間 原則として 1 年 ・滞在費 年額 18,000～22,000 ドル ・往復旅費 | 日本学術会議 (1 月) |
| | フルブライト奨学生 | | | | | |
| | 大学院留学プログラム | | 人文科学、社会科学、自然科学、応用科学（アメリカ研究、日本研究、太平洋地域の政治・経済関係、現代技術社会の諸問題、教育の国際化の領域が望ましい。） | ・大学卒業者（博士号を有する者を除く） ・34歳以下の者優先 ・大学院学生、若手大学教員 | ・期間 1 年 ・往復旅費 ・生活費 ・授業料 ・書籍代等 | 日米教育委員会 (2 月) |
| | 若手研究員プログラム | | 同 上 | ・4 年制大学の専任の助教授、講師又は助手 ・40歳以下の者優先 ・3 か月以上継続した渡米経験のない者優先 | ・期間 9 月 ・往復旅費 ・生活費 ・書籍代等 | |
| | 上級研究員プログラム | | 人文・社会科学分野 | ・4 年制大学の専任の教授又は助教授 ・55歳以下の者優先 ・米国人との共同研究を特に優先 | ・期間 3 ～ 9 月 ・往復旅費 ・生活費 ・書籍代等 | |
| | 大学教員を対象とした旅費支給奨学金 | | 人文科学、社会科学、自然科学、応用科学 | ・4 年制大学の専任教員で、米国高等教育研究機関から招へいを受けている者 ・招へい期間が3 月以上の者 | ・往復旅費 | |
| イスラエル | イスラエル政府奨学金留学生 | 若干名 | 制限なし | ・大学卒業者（含む見込者） ・35歳未満の者 | ・期間 9 月 ・奨学金 月額 250ドル ・授業料免除 | (財)日本国際教育協会留学情報センター (11月) |

| | | | | | | |
|--------|--------------------------|----------------------------|------------------------------|---|--|-----------------------------|
| イタリア | イタリア政府奨学金留学生 | 17名 | 人文科学、社会科学、自然科学、芸術 | ・大学卒業者 | ・期間 1学年 又は2学年間 ・奨学金 月額 420,000リラ ・往復航空賃 | 同 上 (2月) |
| インド | インド政府奨学金留学生 | 6名 | 同 上 | ・大学卒業者(含む見込者) | ・期間 2年 ・滞在費 月額 500~600ルピー ・書籍代 年額 400ルピー以内 ・授業料免除 | 同 上 (1月) |
| オーストリア | オーストリア政府奨学金留学生 | 4名 | 人文科学、社会科学、自然科学 | ・大学の学部2年次修了以上の学歴を有する者 ・20歳以上35歳以下の者 | ・期間 9月 ・奨学金 月額 5,000~6,500 オーストリアシリング ・渡航費一部補助 | 同 上 (1月) |
| ギリシャ | ギリシャ政府奨学金財団留学生 | 15名 | 制限なし (博士論文の作成を行う。) | ・大学院修士課程修了以上の学歴を有する者 ・40歳未満の者 | ・期間 1年 ・奨学金 月額 22,000ドラクマ ・一時金 10,000ドラクマ ・論文印刷費 60,000ドラクマ ・往復航空賃 | 駐日ギリシャ大使館 (3月) |
| スイス | スイス政府奨学金留学生 | 3名 | 人文科学、社会科学、自然科学、芸術 | ・大学院在学者又は大学卒業者 ・35歳未満の者 | ・期間 9月 (1年間の延長が認められることもある) ・奨学金 月額 900~1,100 スイスフラン ・授業料免除 ・帰国旅費 | 同 上 (10月) |
| スウェーデン | スウェーデン政府奨学金留学生 | 1名 | 人文科学、社会科学、自然科学 | ・大学卒業者(含む見込者) | ・期間 8月 ・奨学金 月額 3,020スウェーデンクロネ ・渡航費一部補助 | 同 上 (11月) |
| | Swedish Institute 奨学金留学生 | | スウェーデン以外の国においては、十分な研究ができない分野 | ・年齢制限なし | ・期間 3~4月から3学年以内 ・奨学金 月額 3,020スウェーデンクロネ | Swedish Institute (10月) |
| タイ | タイ政府奨学金留学生 | フェロースhip 6名 スカラースhip 4名 | 人文科学、社会科学、自然科学、美術 | ・フェロースhip 大学卒業者(含む見込者) ・スカラースhip 高校卒業者(含む見込者)で30歳を超えない者 | ・フェロースhip 期間 1年 給費 年額 40,000バーツ ・スカラースhip 期間 1~6年 給費 年額 20,000バーツ | (財)日本国際教育協会留学情報センター (1月) |
| 大韓民国 | 大韓民国政府奨学金留学生 | 4名 | 人文科学、社会科学、自然科学 | ・大学卒業者 ・35歳未満の者 ・韓国の大学に入学したことのない者 ・大韓民国政府奨学金を受けたことのない者 ・単身で渡航できる者で、韓国に配偶者が住んでいない者 | ・期間 修士課程 2年 博士課程 3年 ・奨学金 月額 300,000ウォン ・着後一時金 100,000ウォン ・往復航空賃 ・帰国手当 100,000ウォン ・入学金、授業料免除 | 同 上 (2月) |

| | | | | | | |
|----------|------------------|------------------------|---|--|---|--------------------------------|
| チェコスロバキア | チェコスロバキア政府奨学金留学生 | 5名 | 人文科学, 社会科学, 自然科学, 芸術 | ・大学卒業者 ・35歳未満の者 | ・期間 2年 ・奨学金 月額 1,400チェコクラウン | 駐日チェコスロバキア大使館 (6月) |
| 中国 | 中国政府奨学金留学生 | 40名 | 現代中国語, 中国語, 中国文学, 中国歴史, 哲学, 中国哲学史, 政治経済学, 考古学, 書法, 美術史, 建築学, 薬学, 中国画, 医学, 中国医学, 中国戯曲史, 民族音楽理論, 民族器楽演奏 | ・原則として大学院に在籍する者又は大学卒業後研究教育に従事している者 ・35歳未満の者 | ・期間 1年程度 ・奨学金 月額 140元 ・学費, 宿舍費, 医療費免除 | (財)日本国際教育協会留学情報センター (3月) |
| | | | 同上 | 同上 (大学の3年次以上に在籍している者も可) | ・期間 1～2年 ・奨学金 } 同上 ・学費等 } | |
| | 中国自費留学生 | 10名 | 同上 | 同上 | 自費 | |
| デンマーク | デンマーク政府奨学金留学生 | ・研究奨学金 5名 ・学部奨学金 2名 | 人文科学, 社会科学, 自然科学, 芸術 | ・研究奨学金 大学卒業者(含む見込者) ・学部奨学金 大学3年次以上に在学する者 | ・期間 8月 ・奨学金 月額 研究奨学金 3,065デンマーククローネ 学部奨学金 2,660デンマーククローネ ・旅費一部補助 | 同上 (11月) |
| ドイツ連邦共和国 | 奨学金留学生 | 25名 | 人文科学, 社会科学, 自然科学, 芸術 (音楽, 美術) | ・昭和27年10月2日以降に出生の者 ・人文, 社会科学専攻 原則として修士課程在学者又はそれ以上の学歴を有する者 ・自然科学専攻 修士課程修了者 (ただし, 医・歯学専攻は学部卒業者でよい。) ・音楽専攻 学部3学年在学以上 | ・期間 1年 ・給費 月額 830～940 ドイツマルク (場合によっては, 1,400ドイツマルク) ・家族手当 ・支度料 ・保険料 ・専門書籍代 ・往復旅費 | 同上 (8月) |
| | 奨学金特別給付計画に基づく奨学生 | 10名 | ドイツ語, ドイツ文学 | ・32歳未満の者 ・ドイツ語, ドイツ文学を専攻する大学院修士以上の課程の修了者で大学においてドイツ語, ドイツ文学の教育を担当し, 帰国後もとの職務に復しうる者(同大学院の在学者を含む。) | ・期間 1年 ・奨学金 月額 830～940 ドイツマルク (場合によっては, 1,400ドイツマルク) ・家族手当 ・支度料 ・保険料 ・荷物運賃 ・書籍購入費 ・往復航空運賃 | 文部省学術国際局ユネスコ国際部国際教育文化課 (9月) |
| | ドイツ語担当教員のドイツ派遣 | 15名 | (ドイツ語教育に関する研修) | ・国公私立の大学, 短期大学, 高等専門学校ドイツ語担当教員 ・30歳以上50歳以下の者 ・最近3年以内にドイツにおいて研究に従事又は研修を受けたことのない者 | ・期間 約3月 ・滞在費及び研修経費 ・往復航空賃 | 同上 (12月) |

| | | | | | | |
|--------|----------------------------|------|--|--|--|-----------------------------|
| トルコ | トルコ政府奨学金留学生 | 7名 | トルコ語、トルコ文学、歴史、地理、美術、農学 | ・大学卒業者 ・40歳以下の者 | ・期間 8月 ・奨学金 月額 22,000トルコリラ | (財)日本国際教育協会留学情報センター (3月) |
| ハンガリー | ハンガリー政府奨学金留学生 | 4名 | 人文科学、社会科学、自然科学、芸術 | ・大学卒業者 ・35歳未満の者 | ・期間 18月 ・奨学金 月額 4,000フォリント ・宿舍提供 | 同 上 (4月) |
| フィンランド | 一般奨学金 | 2名 | 同 上 | ・大学卒業者(含む見込者) | ・期間 4～9月 ・奨学金 月額 1,200～1,700マルカ ・授業料免除 | 同 上 (1月) |
| | フィンランド語、フィンランド文化研究のため特別奨学金 | | フィンランド語、フィンランドの歴史、考古学、民族学、文学、政治学 | ・同上 ・大学院レベルの学生が優先 | ・期間 3～9月 ・奨学金 1,700マルカ | |
| フランス | フランス政府給費留学生 | | 文学、人文・社会科学、自然科学、農業、医学、工学、芸術 | ・大学卒業者(含む見込者) ・第一部門(仏文学、語学、演出) 30歳未満、ただし、現在フランス語の教職にあるか将来その予定であり、外国語としてのフランス語教育法を学ぼうとする者は、40歳未満 ・第二部門(人文科学)及び第三部門(自然科学、農業、医学、工学)の者は40歳未満 ・音楽関係受験者は、フランス大使館文化部に年齢制限規定を問合せること ・その他の芸術部門は33歳未満 | ・期間 9月 ・給費 月額 1,900～2,800フラン ・帰国旅費 ・授業料 | 同 上 (6月) |
| ベルギー | ベルギー政府奨学金留学生 | 8名程度 | 芸術、物理学、数学、化学、生物学、動物学、植物学、地質学、地理学、工学、医学、獣医学、薬学、農学、社会学、政治学、経済学、法学、文献学、歴史学、哲学、心理学、教育学 | ・大学卒業者 ・35歳未満の者 | ・期間 1年 ・奨学金 月額 14,000ベルギーフラン ・帰国旅費 ・授業料 ・図書教材費 ・国内研究旅費 | 同 上 (3月) |
| ポーランド | コペルニクスフェローシップ | 10名 | 天文学、物理学、数学、哲学、社会学、経済学、科学史 | ・大学卒業者 | ・期間 12月 均 ・奨学金 月額 8,300～10,375ズロティ ・宿舍費、食費 ・授業料、医療費免除 | 同 上 (2月) |
| | スラブ研究フェローシップ | 5名 | ポーランドの哲学やポーランド文化の広い範囲の分野におけるスラブ研究 | 同 上 | 同 上 | |
| メキシコ | メキシコ政府交換留学生 | 若干名 | スペイン語、メキシコ及び中南米の歴史、地理、文学、法律、経済等 | ・大学の学部又は大学院修士課程に在学中の者、あるいはこれらを卒業又は修了した者 ・30歳未満の者 | ・期間 約10月 ・滞在費 月額 20,000ペソ ・授業料免除 ・往復航空運賃 | 同 上 (2月) |

| | | | | | | |
|---------|--|------|-----------------------------------|--|--|--------------------------------|
| | メキシコ政府交換留学生 大学等において特定のテーマによる専門的研究を行う留学生 | | 財政、経済、文学、歴史、医学、農学等 | ・大学院博士課程在学中の者又は修了した者、あるいは大学卒業以上の学歴を有し、大学又は研究機関等において教育又は研究に従事している者 ・40歳未満の者 | | |
| | メキシコ政府奨学金留学生 | 5名 | メキシコの大学で専攻が可能な分野(医学を除く。) | ・大学卒業生(含む見込者) ・35歳未満の者 ・単身でメキシコに渡航、滞在できる者 | ・期間 1学年 ・滞在費 月額 20,000ペソ ・大学登録料 ・■書費 ・傷害等保険 ・往復渡航費 | |
| | メキシコ国立自治大学奨学金留学生 | 2名 | メキシコ国立自治大学において専攻可能な分野 | ・大学卒業生 | ・期間 58年10月～59年7月 ・滞在費 月額 20,000ペソ ・大学登録料、授業料免除 ・医療保険 | 同 上 (7月) |
| ユーゴスラビア | ユーゴスラビア政府奨学金留学生 | | 人文科学、社会科学、文化(ユーゴスラビアの大学で受入れ可能な分野) | ・大学卒業生(含む見込者) ・40歳未満の者 | ・期間 3～9月 ・奨学金 月額 10,000ディナール(学生寮に入る場合は 8,400ディナール) ・書籍購入費 ・国内研修旅費 | 同 上 (10月) |
| 連合王国 | ブリティッシュ・カウンシル・スカラシップ(留学生) | 10数名 | 理学、工学、医学、人文・社会科学、芸術、教育(含む英語教育) | ・大学卒業生 ・25歳から35歳までの者 | ・期間 9～12月 ・滞在費 月額 280ポンド ・往復旅費 | ブリティッシュ・カウンシル (8月) |
| | 国立大学等英語教育担当教員の連合王国派遣 | 8名 | 英語 | ・国立大学等において英語教育を担当する専任教員 ・30歳以上50歳以下の者 ・最近5年以内に連合王国又はアメリカ合衆国において研究に従事又は研修を受けたことのない者 | ・期間 約2月 ・滞在費 ・往復航空賃 | 文部省学術国際局ユネスコ国際部国際教育文化課 (1月) |

—職員会館の宿泊の御案内—

◎利用日……土・日曜日及び祝日も利用できます!!

◎申し込み…利用日の2日前までに!!

◎門限時刻…午後10時………御協力を………!!

昭和59年度富山大学入学試験の実施状況について

昭和59年度富山大学第2次入学試験は、去る3月4日(日)学力検査、5日(月)教育学部実技検査が、学内五福地区及び工学部キャンパスの5試験場で実施されました。

志願者は3,427名で、県内高等学校出身者1,595名(男子944名、女子651名)で全体の47%、現役は2,582名(男子1,745名、女子837名)で全体の75%で

した。また、合格者の発表は、3月13日(火)午前9時五福地区及び工学部で行われ、合格者1,185名の内訳をみると県内高等学校出身者673名(男子359名、女子314名)で全体の57%であり昨年を若干下回りました。

なお、本年度から理学部物理学科において第2次募集(入学定員10名を留保)が導入され、合格者の発表は、3月30日(金)午後5時五福地区で行われました。

昭和59年度 富山大学入学者選抜状況

| 学部 | 学科(課程) | 募集人員 | 志願者数 | 受験者数 | 欠席者(1部欠を含む) | 合格者数 |
|-----|---------------|-------|---------|---------|-------------|--------|
| 人 文 | 人 文 学 科 | 90 | 425 | 399 | 26 | 90 |
| | 語 学 文 学 科 | 80 | 202 | 189 | 13 | 80 |
| | 計 | 170 | 627 | 588 | 39 | 170 |
| 教 育 | 小学校教員養成課程 | 140 | 176 | 176 | 0 | 140 |
| | 中学校教員養成課程 | 50 | 110 | 105 | 5 | 50 |
| | 養護学校教員養成課程 | 20 | 43 | 43 | 0 | 20 |
| | 幼稚園教員養成課程 | 30 | 74 | 73 | 1 | 30 |
| | 計 | 240 | 403 | 397 | 6 | 240 |
| 経 済 | 経 済 学 科 | 120 | 327(8) | 306(8) | 21 | 120(4) |
| | 経 営 学 科 | 120 | 544(15) | 515(15) | 29 | 120(4) |
| | 経 営 法 学 科 | 60 | 287(6) | 264(6) | 23 | 60(2) |
| | 計 | 300 | 1,158 | 1,085 | 73 | 300 |
| 理 | 数 学 学 科 | 40 | 78 | 77 | 1 | 40 |
| | 物 理 学 科 | 40 | 254(16) | 250(16) | 4 | 40(10) |
| | 化 学 学 科 | 40 | 83 | 76 | 7 | 40 |
| | 生 物 学 科 | 30 | 63 | 61 | 2 | 30 |
| | 地 球 科 学 科 | 30 | 68 | 67 | 1 | 30 |
| | 計 | 180 | 546 | 531 | 15 | 180 |
| 工 | 電 気 工 学 科 | 50 | 111 | 106 | 5 | 50 |
| | 工 業 化 学 科 | 45 | 104 | 101 | 3 | 45 |
| | 金 属 工 学 科 | 40 | 175 | 171 | 4 | 40 |
| | 機 械 工 学 科 | 50 | 125 | 119 | 6 | 50 |
| | 生 産 機 械 工 学 科 | 40 | 131 | 128 | 3 | 40 |
| | 化 学 工 学 科 | 40 | 145 | 136 | 9 | 40 |
| | 電 子 工 学 科 | 40 | 68 | 68 | 0 | 40 |
| | 計 | 305 | 859 | 829 | 30 | 305 |
| 合 計 | | 1,195 | 3,593 | 3,430 | 163 | 1,195 |

注：経済学部の内は推薦入学志願者数・受験者数・合格者の内数を示す。

理学部物理学科の内は第2次募集入学志願者数・受験者数・合格者の内数を示す。

昭和59年度富山大学経営短期大学部入学者選抜状況

| | 募 集 人 員 | 志 願 者 | 受 験 者 | 欠 席 者 | 合 格 者 |
|-----|---------|---------|---------|-------|-------|
| 一 般 | 100 | 56(16) | 49(10) | 7 (6) | 44(9) |
| 推 薦 | | 66 | 64 | 2 | 50 |
| 合 計 | 100 | 122(16) | 113(10) | 9 (6) | 94(9) |

昭和58年度富山大学並びに富山大学 経営短期大学部卒業式挙行

昭和58年度の富山大学卒業式は、3月24日(日)午前10時30分から富山県民会館ホールで、同経営短期大学部卒業式は、3月24日(日)正午からホテル海老亭においてそれぞれ挙行されました。

今年度も、富山市公会堂の改築修理のため、会場を変更し分散して挙行されたもので、当日は曇りがちな天候で風が強く肌寒さを感じたが、式終了のころから天気も回復し、式終了後の県民会館ホール前では各クラブの後輩たちによる胴上げ、写真撮影などが見られ、引き続き各学部ごとの卒業記念祝賀会が各会場で執り行われました。

なお、午前11時から県民会館 303号室において名誉教授との懇談会が開催され、柳田学長から最近におけ

る大学内の状況等の説明があった後、それぞれ出席の名誉教授から個々の近況などについて懇談がなされ、和やかなふんい気のうちに終了しました。



昭和58年度富山大学大学院並びに専攻科修了式挙行

昭和58年度の富山大学大学院（理、工学研究科）並びに同専攻科（文学、教育）修了式は、3月23日(金)午

前10時から事務局大会議室において挙行されました。

なお、大学院の学位記授与者は次のとおりです。

昭和58年度 富山大学大学院理学研究科（修士課程）修了者

| 専 攻 | 入学年度 | 氏 名 | 論 文 題 目 |
|-------------|--------|---------|--|
| 数 学 (3名) | 昭和57年度 | 金 子 高 夫 | Martingale Inequalities and Local Times. |
| | " | 坂 下 良 徳 | A nonstandard approach to the theory of multiple Wiener integrals. |
| | " | 杉 田 和 彦 | 二次形式のComposition について |
| 物理学 (6名) | " | 石 田 善 彦 | 量子色力学におけるカイラル対称性の自発的破れについて |
| | " | 栗 本 武 | 無限大の困難を含まない超対称な場の量子論について |
| | " | 谷 村 彰 一 | 赤外線レーザーによる分子分光の研究 |

| | | | |
|--------------------|---|---------|---|
| | " | 中 村 慎 一 | 極低温におけるグラファイト層化合物のドハース・ファンアルフェン効果の研究 |
| | " | 細 谷 澄 夫 | 誘導トルク及び磁気抵抗測定による錫のフェルミ面の実験的研究 |
| | " | 矢 野 栄 一 | アセトアミドのマイクロ波分光 |
| 化 学 (8名) | " | 清 川 芳 信 | メチル基を含む 2,3 の分子のねじれ振動構造の解析 |
| | " | 菅 沢 剛 一 | 周波数応答法による不均一系の動的性質の研究 |
| | " | 高 木 正 年 | 熱拡散法によるトリチウムの濃縮 |
| | " | 土 田 雅 昭 | T ₂ ¹⁸ O の赤外線吸収スペクトル及びその回転構造の解析 |
| | " | 萩 野 隆 則 | Ni を含む合金触媒の構造と表面組成に関する研究 |
| | " | 長 谷 孝 之 | 三環性含酸素複素環化合物の合成 |
| | " | 宮 嶋 恒 行 | C ₃ V対称をもつ分子の赤外強度における温度及び溶媒効果 |
| | " | 山 本 謙 一 | 4 位に酸素官能基をもつ 2,3-ジヒドロベンゾフラン誘導体の合成 |
| 生 物 学 (5名) | " | 西 口 靖 彦 | 富山湾におけるモミジガイ（棘皮動物：ヒトデ類）の生殖周期 |
| | " | 能 川 裕 之 | 無尾両生類の鰓後腺と脳に認められるカルシトニン活性とその性質について |
| | " | 藤 森 雅 子 | 無尾両生類における体内Caの動態—カルシトニンによる制御 |
| | " | 安 岡 千 枝 | 抗原抗体結合物の組成比の相違がマクロファージの生物活性に及ぼす影響について |
| | " | 山 崎 純 一 | ヨモギ属植物の染色体研究 |
| 地 球 科 学 (5名) | " | 内 山 悟 志 | 古地磁気より見た日本列島の中生代テクトニクス |
| | " | 上 石 勲 | なだれの運動形態について |
| | " | 滝 川 真 澄 | 湿雪の力学的性質について |
| | " | 中 川 渉 | 四阿火山の地質と岩石 |
| | " | 成 戸 健 治 | 隠岐島前の第三紀アルカリ火山岩類 |

昭和58年度 富山大学大学院工学研究科（修士課程）修了者

| 専 攻 | 入学年度 | 氏 名 | 論 文 題 名 |
|------------------------|--------|---------|-----------------------------|
| 電 気 工 学 専 攻 (3名) | 昭和57年度 | 上 埜 英 昭 | コオロギにおける触角運動の電気生理学的研究 |
| | " | 浦 田 久 雄 | 直接差分モデルによる水蒸気バブルの生成シミュレーション |
| | " | 田 渕 眞 澄 | 小動物の機能測定のためのトランスジューサに関する研究 |

| | | | |
|------------------|---|---------|--|
| 工業化学専攻 (7名) | " | 池田 まりこ | ビシクロ〔3.3.0〕オクター 2.6-ジオンジエナミンよりヘプタレン核及びジアズレノペンタレン核の合成 |
| | " | 厚主 文 弘 | アルキル化による石炭の可 溶化 ジグライムを溶媒とした石炭の繰り返し還元メチル化 |
| | " | 関岡 忠 康 | 1-メチルーシクロアルキルフェニルスルホキシドの脱離反応機構 |
| | " | 高田 京 子 | 無水マレイン酸およびエチレンイミン含有複合樹脂のウラン吸着に関する研究 |
| | " | 竹本 一 也 | パラジウムの酸素電極反応に関する研究 |
| | " | 田中 英 司 | 脱水閉環によるベンズアズレン類及び縮環フェナレノン類の合成 |
| | " | 南部 元 志 | 置換アゾキシベンゼンの合成と反応 |
| 金属工学専攻 (4名) | " | 浅井 康 夫 | Cu-Zn 系合金における加工硬化係数 n の変化に伴うすべり模様の光顕観察 |
| | " | 久保 嘉 成 | Ni-Al 系合金の時効過程における析出挙動について |
| | " | 矢野 豊 | Ver satic Acid 10によるFe の溶媒抽出に関する研究 |
| | " | 山本 有 一 | Al-Mg-Si 系合金における時効析出と機械的性質 |
| 機械工学専攻 (4名) | " | 古場田 良 之 | 乱流境界層における熱線風速計の特性 |
| | " | 櫻野 克 也 | 回転曲り矩形管内の流れ |
| | " | 佐藤 佳 司 | 低温における粉体真空断熱に関する研究 |
| | " | 吉澤 慎 一 | スラスト軸受の動特性におよぼす潤滑流体の慣性力の影響に関する研究 |
| 生産機械工学専攻 (2名) | " | 澤崎 康 二 | 焼入れ焼戻し鋼における研削加工層について |
| | " | 濱田 眞 | CO ₂ レーザーの製作と応用に関する研究 |
| 化学工学専攻 (6名) | " | 石橋 大 策 | 流動層型生物膜廃水処理装置によるBOD, COD処理 |
| | " | 田中 成 典 | W101Wエマルジョンの滴径におよぼす界面活性剤濃度の影響 |
| | " | 中村 恵 威 | 単一水平回転円錐型容器を用いた閉回路造粒プロセスの検討 |
| | " | 西尾 弘 伸 | 多孔性固体電極の有効係数について |
| | " | 平野 誠 一 | 矩形ダクト内乱流促進体による物質移動の増進に関する研究 |
| | " | 吉村 浩 吉 | 特定制御対象についての人間の制御特性の追求 |
| 電子工学専攻 (6名) | " | 池上 雅 一 | 層間化合物の合成と電子物性に関する研究 |
| | " | 入野 清 | III-VI族層状半導体の熱酸化過程の研究 |
| | " | 大畑 司 | 垂直磁気記録による録画の研究 |
| | " | 鳥山 一 郎 | アンテナ近傍に存在する誘電体の及ぼす影響についての研究 |
| | " | 藤田 政 志 | 図書目録カードの自動認識に関する研究 |
| | " | 藤田 佳 隆 | 酸化バナジウム蒸着膜のエレクトロクロミズムの機構に関する研究 |

人 事 異 動

| 異動区分 | 発令年月日 | 氏 名 | 異動前の所属官職 | 異 動 内 容 | 任命権者 |
|------|----------|---------|----------|----------------|-------------------|
| 採用 | 59. 4. 1 | 押 田 雅 次 | | 助教授(教育学部) | 文部大臣 |
| | " | 笠 原 一 世 | | 助手(理学部) | 富山大学長 |
| | " | 阿 部 幸 隆 | | " (") | " |
| | " | 大 藪 龍 介 | | 助教授(教養部) | 文部大臣 |
| | " | 稲 田 篤 信 | | 講師(") | 富山大学長 |
| | " | 江 上 繁 樹 | | " (") | " |
| | " | 西 村 芳 康 | | " (") | " |
| | " | 宮 崎 新 悟 | | 教諭(教育学部附属小学校) | " |
| | " | 吉 田 人 史 | | " (") | " |
| | " | 山 下 善 路 | | " (教育学部附属中学校) | " |
| | " | 松 井 保 | | " (") | " |
| | " | 松 井 茂 昭 | | " (教育学部附属養護学校) | " |
| | " | 沖 幸 雄 | | " (") | " |
| | " | 中 島 代志美 | | " (") | " |
| | " | 北 治 夫 | | 文部事務官(経理部主計課) | " |
| | " | 伏 喜 俊 至 | | " (" 経理課) | " |
| | " | 須 田 雅 彦 | | " (人文学部・理学部) | " |
| | " | 高 橋 知 裕 | | " (教育学部) | " |
| | " | 中 村 義 浩 | | " (経済学部) | " |
| | " | 秋 田 直 美 | | " (") | " |
| | " | 室 木 正 志 | | " (") | " |
| | " | 島 田 勝 弘 | | " (工学部) | " |
| | " | 佐 藤 修 | | " (") | " |
| | " | 本 崎 剛 | | 文部技官(") | " |
| | " | 小 原 俊 一 | | 文部事務官(附属図書館) | " |
| | " | 竹 田 充 輝 | | " (経営短期大学部) | 富山大学経営 短期大学部学長 |
| | " | 釜 倉 俊 子 | | " (庶務部人事課) | 富山大学長 |
| | " | 藤 城 大 志 | | " (") | " |
| | " | 田 島 順 子 | | 事務補佐員(学生課) | " |
| | " | 朴 木 順 子 | | " (人文学部・理学部) | " |

| | | | | | |
|-----|----------|-------|----------------------|----------------------|---------------|
| 採用 | 59. 4. 1 | 永井正夫 | | 臨時用務員(教育学部作業員) | 富山大学長 |
| | " | 経田愛美 | | 事務補佐員(工学部) | " |
| | " | 見村敏子 | | " (附属図書館) | " |
| 昇任 | " | 山口幸祐 | 講師(人文学部) | 助教授(人文学部) | 文部大臣 |
| | " | 磯部彰 | " (") | " (") | " |
| | " | 佐々木浩 | 助教授(教育学部) | 教授(教育学部) | " |
| | " | 後藤敏伸 | 助手(") | 講師(") | 富山大学長 |
| | " | 伊藤良広 | 講師(経済学部) | 助教授(経済学部) | 文部大臣 |
| | " | 小 鷲典明 | " (") | " (") | " |
| | 59. 4. 1 | 日下部実 | 助教授(理学部) | 教授(岡山大学温泉研究所) | 文部大臣 |
| | " | 佐竹洋 | 助手(") | 助教授(理学部) | " |
| | " | 小林信之 | 助教授(工学部) | 教授(工学部) | " |
| | " | 中谷訓幸 | 助手(") | 助教授(") | " |
| | " | 山田茂 | 文部技官(" ・教務職員) | 助手(") | 富山大学長 |
| | " | 松山政夫 | 助手(トリチウム科学センター) | 講師(トリチウム科学センター) | " |
| | " | 舟杉博稔 | 教諭(教育学部附属養護学校) | 教頭(教育学部附属養護学校) | 文部大臣 |
| | " | 高原吉朗 | 北海道大学経理部主計課長 | 経理部長 | " |
| | " | 下重孝之 | 電気通信大学庶務課長 | 学生部次長 | " |
| | " | 京藤 昌 | 文部事務官(附属図書館) | 附属図書館閲覧係長 | 富山大学長 |
| | " | 雁田彰 | 庶務部庶務課企画係企画主任 | 高岡短期大学総務課総務係長 | 高岡短期大学長 |
| | " | 友坂義一 | 文部事務官(経理部経理課) | 経理部経理課出納係出納主任 | 富山大学長 |
| | " | 杉本周平 | " (工学部) | 工学部庶務係庶務主任 | " |
| | " | 濱野松男 | " (教育学部) | 富山工業高等専門学校会計課用度係用度主任 | 富山工業高等専門学校長 |
| 転任 | " | 藤田信二 | 経営短期大学部総務係長 | 経済学部会計係長 | 富山大学長 |
| | " | 林清治 | 富山工業高等専門学校会計課用度係用度主任 | 教養部学生係学生主任 | " |
| | " | 大杉登 | 文部事務官(経営短期大学部) | 文部事務官(教育学部) | " |
| | " | 土田敏雄 | 文部技官(名古屋大学大型計算機センター) | 文部技官(附属図書館) | " |
| | " | 加賀見実 | 経理部経理課用度係長 | 経営短期大学部総務係長 | 富山大学経営短期大学部学長 |
| | " | 高野俊英 | " 給与係済組合主任 | 東京工業高等専門学校会計課総務係総務主任 | 東京工業高等専門学校長 |
| | " | 乗京博之 | 文部事務官(人文学部・理学部) | 文部事務官(福井医科大学教務部学生課) | 福井医科大学長 |
| 配置換 | " | 藤森勉 | 教授(教育学部) | 教授(和歌山大学教育学部) | 文部大臣 |
| | " | 田中克志 | 助教授(経済学部) | 助教授(静岡大学人文学部) | " |
| | " | 小林浩一 | 教授(東京大学物性研究所) | 教授(教養部) | " |
| | " | 濱口脩 | 助教授(教養部) | 助教授(広島大学学校教育学部) | " |
| | " | 瀬川正己 | 経理部長 | 埼玉大学経理部長 | " |
| | " | 内藤信 | 学生部次長 | 山口大学庶務部長 | " |

| | | | | | |
|-----|----------|---------|-----------------|------------------------|-------|
| 配置換 | 59. 4. 1 | 内 海 稔 雄 | 厚生課長 | 奈良女子大学厚生課長 | 文部大臣 |
| | " | 岡 嶋 敬 | 長岡技術科学大学教務部入学主幹 | 厚生課長 | " |
| | " | 早 崎 寛 威 | 経営短期大学部事務長 | 附属図書館事務長 | " |
| | " | 竹 岡 環 | 附属図書館事務長 | 経営短期大学部事務長 | " |
| | " | 西 尾 武 | 学生課学生係長 | 庶務部庶務課文書係長 | 富山大学長 |
| | " | 岡 山 一 雄 | 経済学部庶務係長 | " 学事調査係長 | " |
| | " | 前 田 邦 樹 | 庶務部人事課職員係長 | 庶務部人事課任用係長 | " |
| | " | 長 澤 義 男 | " 庶務課文書係長 | " 職員係長 | " |
| | " | 中 林 邦 夫 | 教養部会計係長 | 経理部主計課司計係長 | " |
| | " | 山 岸 長 幸 | 教育学部会計係長 | " 経理課用度係長 | " |
| | " | 奥 村 喜代志 | 人文学部・理学部学務係長 | 学生課学生係長 | " |
| | " | 清 水 寛 | 庶務部庶務課学事調査係長 | 人文学部・理学部学務係長 | " |
| | " | 結 城 進 | 経済学部会計係長 | 教育学部会計係長 | " |
| | " | 草 島 幸 雄 | 庶務部人事課任用係長 | 経済学部庶務係長 | " |
| | " | 奥 田 眞 一 | 経理部主計課司計係長 | 教養部会計係長 | " |
| | " | 伊 野 不二夫 | 人文学部・理学部庶務係庶務主任 | 庶務部庶務課庶務係庶務主任 | " |
| | " | 北 川 功 | 経理部主計課総務係監査主任 | " 企画係企画主任 | " |
| | " | 河 上 孝 | 人文学部・理学部経理係経理主任 | 経理部主計課総務係監査主任 | " |
| | " | 柳 田 邦 雄 | 教養部教務係教務主任 | 学生課入学試験係入学試験主任 | " |
| | " | 大 崎 秀 雄 | " 庶務係庶務主任 | 人文学部・理学部庶務係庶務主任 | " |
| | " | 松 井 博 文 | 庶務部庶務課庶務係庶務主任 | 教養部庶務係庶務主任 | " |
| | " | 尾 山 吉 昭 | 学生課入学試験係入学試験主任 | " 教務係教務主任 | " |
| | " | 田 中 崇 子 | 工学部庶務係庶務主任 | 附属図書館総務係総務主任 | " |
| | " | 松 島 珠 喜 | 文部事務官(附属図書館) | 文部事務官(厚生課) | " |
| | " | 澤 崎 勝 彦 | " (経理部主計課) | " (人文学部・理学部) | " |
| | " | 山 田 知 訓 | " (教育学部) | " (") | " |
| | " | 織 田 世 起 | " (") | " (経済学部) | " |
| | " | 武 田 正 夫 | " (経済学部) | " (附属図書館) | " |
| | " | 庄 司 正 文 | " (経理部経理課) | " (") | " |
| | " | 山 本 健 市 | 文部技官(工学部・技術職員) | 文部技官(工学部・教務職員) | " |
| | " | 草 開 清 志 | 文部技官(工学部・技術職員) | 文部技官(工学部・教務職員) | " |
| | " | 高 島 仙 次 | 用務員(附属図書館作業員) | 用務員(経理部経理課作業員) | " |
| 併 任 | " | 大 塚 恵 一 | 教授(教育学部) | 附属小学校長(59.4.1~61.3.31) | 文部大臣 |
| | " | 吉 岡 周 明 | " (") | 附属中学校長(") | " |
| | " | 中 川 孝 | " (") | 附属養護学校長(") | " |
| | " | 中 谷 唯 一 | " (") | 附属幼稚園長(") | " |

| | | | | | |
|------|-----------|-----------|-----------------|--------------------------------------|---------------|
| 併 任 | 59. 4. 1 | 杉 本 新 平 | 〃 (教養部) | 教養部長・評議員(〃) | 文部大臣 |
| | 〃 | 〃 | 〃 (〃) | 評議員の併任を解除する | 〃 |
| | 〃 | 有 沢 一 男 | 〃 (〃) | 評議員(59.4.1~60.4.24) | 〃 |
| | 〃 | 楠 喜 一 | 庶務部庶務課企画係長 | 高岡短期大学 | 高岡短期大学長 |
| | 〃 | 北 川 功 | 〃 企画係企画主任 | 〃 | 〃 |
| | 〃 | 保 正 邦 久 | 文部事務官(経済学部) | 〃 | 〃 |
| | 〃 | 寺 澤 達 範 | 〃 (人文学部・理学部) | 国立立山少年自然の家 | 国立立山少年自然の家所長 |
| | 〃 | 古 川 泰 弘 | 〃 (経済学部) | 〃 | 〃 |
| | 〃 | 釜 倉 俊 子 | 〃 (庶務部人事課) | 〃 | 〃 |
| | 〃 | 藤 城 大 志 | 〃 (〃) | 〃 | 〃 |
| | 〃 | 永 盛 祐 介 | 文部技官(経理部経理課車庫長) | 庶務部庶務課 | 富山大学長 |
| | 〃 | 藤 井 伸 市 | 用務員(経済学部作業員) | 経営短期大学部作業員(59.4.1~60.3.31) | 富山大学経営短期大学部学長 |
| 職務命令 | 〃 | 友 坂 義 一 | 文部事務官(経理部経理課) | 経理部経理課出納係出納主任を免ずる | 富山大学長 |
| | 〃 | 堀 口 勲 | 〃 (人文学部・理学部) | 人文学部・理学部庶務係人事主任を命ずる | 〃 |
| | 〃 | 能 手 哲 治 | 〃 (〃) | 〃 経理係経理主任を命ずる | 〃 |
| | 〃 | 保 正 邦 久 | 〃 (経済学部) | 経済学部学務係教務主任を命ずる | 〃 |
| | 〃 | 杉 本 周 平 | 〃 (工学部) | 工学部庶務係人事主任を免ずる | 〃 |
| | 〃 | 関 場 貞 子 | 〃 (附属図書館) | 附属図書館受入係受入主任を命ずる 附属図書館参考係参考主任を免ずる | 〃 |
| 辞 職 | 59. 3. 31 | 角 田 勝 | 助教授(経済学部) | 辞職を承認する | 文部大臣 |
| | 〃 | 田 中 節 男 | 〃 (教養部) | 〃 | 〃 |
| | 〃 | 相 原 茂 | 〃 (〃) | 〃 | 〃 |
| | 〃 | 三ツ井 譲 | 教頭(教育学部附属養護学校) | 〃 | 〃 |
| | 〃 | 奥 井 貞 夫 | 教諭(教育学部附属小学校) | 〃 | 富山大学長 |
| | 〃 | 濱 谷 尚 生 | 〃 (〃) | 〃 | 〃 |
| | 〃 | 高 島 克 美 | 〃 (教育学部附属中学校) | 〃 | 〃 |
| | 〃 | 稲 垣 不二男 | 教諭(教育学部附属中学校) | 〃 | 〃 |
| | 〃 | 飯 田 聰 | 〃 (教育学部附属養護学校) | 〃 | 〃 |
| | 〃 | 窪 田 陽 昌 子 | 〃 (〃) | 〃 | 〃 |
| | 59. 4. 1 | 塩 谷 孝 雄 | 附属図書館閲覧係長 | 〃 | 〃 |
| | 〃 | 金 岡 スミ子 | 文部事務官(教養部) | 〃 | 〃 |
| | 〃 | 伊 藤 信 一 | 〃 (経理部主計課警務員長) | 〃 | 〃 |
| | 〃 | 杉 林 正次郎 | 〃 (〃 警 務 員) | 〃 | 〃 |
| | 〃 | 吉 野 敏 邦 | 文部技官(施設課工務員) | 〃 | 〃 |
| | 〃 | 室 田 与三松 | 〃 (教養部當繕手) | 〃 | 〃 |
| 退 職 | 59. 3. 31 | 秋 田 直 美 | 事務補佐員(人文学部・理学部) | 昭和59年3月30日限り退職した | 〃 |
| | 59. 4. 1 | 藤 井 政 雄 | 技能補佐員(施設課機械操作手) | 昭和59年3月31日限り退職した | 〃 |

| | | | | | |
|----|----------|---------|---------------|----------------------|-------|
| 退職 | 59. 4. 1 | 松 原 孝 則 | 臨時用務員(工学部作業員) | 昭和59年3月31日限り退職した | 富山大学長 |
| | " | 三 村 紀 子 | 事務補佐員(附属図書館) | " | " |
| | 59. 4. 2 | 田 中 久 雄 | 教授(教育学部) | 昭和59年4月1日限り停年により退職した | 文部大臣 |
| | " | 鶴 木 利 雄 | " (教育学部) | " | " |
| | " | 四 谷 平 治 | " (工学部) | " | " |
| | " | 廣 田 實 | " (") | " | " |
| | " | 中 川 孝 之 | " (") | " | " |
| | " | 南 立 作 | 講師(") | " | 富山大学長 |
| | " | 岩 田 弘 | 教授(教養部) | " | 文部大臣 |

学 内 諸 報

教育学部附属中学校長の改選

鶴木利雄教育学部附属中学校長の任期が、昭和59年3月31日に満了することに伴い、教育学部教授会は、3月19日に次期附属中学校長候補者の選挙を行い、その結果、吉岡周明教授が新しく選出されました。任期は、昭和59年4月1日から2年間。

吉岡教授は、昭和23年3月京都大学工学部を卒業後、同28年4月富山県公立学校教員、同35年1月富山大学教育学部講師、同40年8月同助教授を経て、同56年2月同教授となり今日に至っています。

担当は、機械、富山県出身。

海 外 渡 航 者

| 渡航の種類 | 所 属 | 職 | 氏 名 | 渡 航 先 国 | 目 的 | 期 間 |
|--------|-------|-----|-------|-----------------|--|-------------------------|
| 海外研修旅行 | 人文学部 | 講 師 | 磯部 彰 | 中華人民共和国 | 中国小説・戯曲に関する資料 収集及び学術交流のため | 59. 3. 29 } 59. 4. 8 |
| | 経済学部 | 助教授 | 武井 勲 | アメリカ合衆国 | アメリカにおけるリスク・マ ネジメント・保険学会出席と その関連調査・研究のため | 59. 3. 26 } 59. 4. 9 |
| | 工 学 部 | 講 師 | 袋谷 賢吉 | アメリカ合衆国, カナダ | 視物質の光化学的研究のため | 59. 4. 1 } 60. 10. 1 |
| | 教 養 部 | 助教授 | 気賀澤保規 | 中華人民共和国 | 中国唐宋時代の都市と社会に 関する歴史文物・遺跡の調査 及び研究交流のため | 59. 3. 24 } 59. 4. 6 |

退職者を囲む懇談会開催

昭和58年度に本学を停年又は勸奨により退職された方々を囲む懇談会が、去る3月16日(金)11時から事務局中会議室において開催されました。

懇談会に先立ち、記念品の贈呈、学長あいさつ、退職者代表の謝辞、記念撮影が行われたあと懇談会に入りました。

懇談会は、終始和やかな雰囲気のうちに行われ学長はじめ各部局長等から、永年の労がねぎらわれました。

なお、退職者は次のとおりです。

経 理 部 伊 藤 信 一
 施 設 課 吉 野 敏 邦
 教育学部 鶴 木 利 雄
 工 学 部 四 谷 平 治
 " 中 川 孝 之
 教 養 部 岩 田 弘
 " 室 田 与 三 松
 附属図書館(経済学部) 水 口 妙 子

経 理 部 杉林正次郎
 教育学部 田 中 久 雄
 " 安 守 数 雄
 工 学 部 廣 田 実
 " 南 立 作
 教 養 部 金岡スミ子
 附属図書館 塩 谷 孝 雄



シリーズ「富山大学、あの日の頃」(7)

〈回 顧 閑 談〉

富山大学名誉教授の会 館 熙 道

老人の好む所は回顧が多い。展望もまた老人のたのしみではあるが、その展望を実際に自らの歩みとするにはもう力弱い感じがするこの頃である。老人の回顧閑談として大学につとめたうちの一つの思い出を書きとどめてみたい。それは、附属中学校創設にまつわる思い出である。

富山大学の発足は昭和24年のことであるが、現在のキャンパスに大学が設置されるについてはどうしても忘れられない方がいる。新制大学発足以前にすでにこのキャンパスに位置を定めていたのは富山師範学校(国立)であった。この学校も富山大学に包括されたのであるから、ここに大学が位置を定めることは自然な成り行きではあるが、それ故にこそ富山師範学校が終戦後いち早くここに位置を定めたことが、富山大学の発足には決定的に重要なことであったのである。けれども、このことは容易なことではなかったのではなく言葉に現わすこともできず、それだけに却って人々にも

あまり知られずに殆んど忘れ去られている。そのことの一端を回顧して私は感慨なきを得ないのである。

いうまでもなく、この土地は旧陸軍歩兵第三十五連隊の跡地である。大空襲被災によりここも灰燼に帰したのであるが、終戦後この土地及び焼け残りの建物、立木等のすべては大蔵省財務局の管理に移されたのである。この終戦時の富山師範学校長は伊東法俊先生であった。先生はその後、昭和24年の新制大学の発足にあたり三重大学教育学部に転任され、ここで定年退官を迎えられ、数年前に故人になられた。先生が当地御在任中に終戦を迎えられた。昭和20年8月大空襲の焼け跡で、集まった自失の教官、生徒を前にして、且ってナポレオン戦争の戦禍の町ベルリンにおいて、哲学者フィヒテが「ドイツ国民に告ぐ」の演説で「戦禍にうちひしがれたこのドイツの地下にドイツの精神は今も生きています。このドイツの精神を育て生きかえらせねばならぬ」と声涙共に訴えた。このことを先生自身声涙を共

にせられ、涙を二度ふいて語られた。この時の感銘は忘れ難い。この伊東先生こそが終戦時からの再生師範学校の建設に骨身をけずって努力せられたのである。この先生の苦勞なくしては、旧連隊が学問の府として生まれかわることは極めて難しいことであつた。

戦災による校舎焼失のあと、富山師範学校（旧女子師範学校を包括していた）は不二越工業寮、日本ドック草島寮等に分散していた。勿論、学校において授業らしいことは殆んどできないから、一日も早く校舎を得なくてはならぬと切望したのはいうまでもなく、そのためにも一刻も早く校舎敷地を確保することが必要であつた。もとより、男子師範学校（県立）の跡地は新制富山師範学校（国立）にとっては狭すぎるので飛躍的に広大な土地を得ることが是非必要であつた。伊東法俊先生は京都大学西洋哲学専攻の卒業であられた上に京都の平安中学校の卒業生であられ、私にとっては中学校についての同窓大先輩であられた。同窓先輩の校長に仕えることは教員の世界で珍らしいことではないのだが、実は、この中学校は当時ではスポーツ等では抜群の成果をあげていたけれども、学業のことはあまり香しくはなかったもので、この中学校から旧制高等学校へ進学することは極めてまれなことであつたから、私が先生と同じ職場でお会いすることは奇遇といつてよかったのである。伊東先生が「君も平安中学校の卒業生だな」と親愛のこたを掛けて下さったのは、着任早々の先生のいささかの感慨あつてのことであつたろう。「私は長く教員をしているが、平安中学校の後輩にあつたのは君がはじめてだ。高等学校、大学はちがっても少年時代の中学校の思い出をおなじくするのはいいもんだな」といわれたが、大先輩からこの温かい言葉をきいて、こちらの粗末が気恥しいようで、力強い鞭撻を与えられたようで有難い思いをしたものである。カント、フィヒテからヤスパース、ハイデガーに至るまで、こと哲学問題の話になると、先生は全く若い学生とおなじようなひたむきな話し振りに生き生きとしていられて、若いはずの私の方が先生の情熱におしつぶされそうになったものである。先生は、とくにヤスパース研究についての御造詣が深く、「勉強ということは生涯のことだよ。校務がいそがしいから勉強ができぬというような粗末な人間にはなるなよ。君はカントや親鸞を勉強しているらしいが、生涯をかけてやりなさいよ。そのことが君の人間形成に深くかわるようでこそ、教育のことにたずさわる人間として成長できると思うよ。学問というものは趣味など

というものではない。学問しているということが生きていることの証しというものだよ。しっかりやれや。」このようなお話は何度聞かされたかわからないから、私はそれを生涯忘れることはできない。

このような先生はそのお人柄にはつねに高きをのぞむロマンの香りがあつた。したがって新生師範学校の新天地を求められるにあたっては先生の深い洞察から旧陸軍の広大な跡地を選ばれたのである。「つわものどもの夢のあと」に、今や「学びの里」をつくるのだ、と先生はいわれた。しかし、このことは容易なことではなかった。また先生はよく「足が棒になるとはこのことだ」といいながら、財務局をはじめ文部省その他関係機関の説得に昼夜を^{とも}かけて歩きつづけられた。私は何度か先生のお伴をしたことがあるけれども、若い学究のような情熱を感じていた。この先生には官僚的な事務的な様子は全く感じられなかった。文学者か、芸術家かの創作意欲に似たような情感が先生の学校経営の精神に燃えているような感じであつた。先生はまた「君、どんなことがあつても、よみたい本を一頁もよまずに過す日があるようなことはしてはいかんよ」といわれて、若い私の方がたじろぐような思いをしたものである。

そんな先生は、はじめは、旧練兵場（現県営野球場）から兵舎のある所までの旧連隊の跡地全部を学校として使わして欲しいという折衝を関係機関とせられたのであるのに、それが認められていれば、その後の富山大学の構想も極めて雄大なものになり得ただろうに、残念乍ら、練兵場までを学び舎とすることはかなわなかったのである。したがって、現富山大学各学部のうち最も早く現在地に位置したのは現教育学部の前身の富山師範学校であつた。

昭和22年に富山師範学校（国立）附属中学校が創設せられたのである。私が附属中学校主事として着任してから日を経ずして、伊東先生は三重師範学校へ移られたが、先生が私に「君、新しい中学校を本気で作りあげてみなさい。」といわれた。その「本気」という先生の声が今もはっきり心にのこっているが、名残りのつきぬ思いでお別れした。その附属中学校の発足当時は、旧制度であつた附属小学校高等科（1学年1学級での2学級編成）というものがあつたので、それをもとにして新制度の附属中学校は初年度で1学年2学級で発足することになったのである。しかし、富山師範学校構内の位置は歩兵第三十五連隊歩兵砲大隊の馬屋を改造したものであつて、現在の大学構内北側はずれて

あった。始めの頃は、教官室には机、椅子各一脚、火鉢が一つあっただけであった。それが附属中学校の新生児の姿であって、附属小学校の物置きのようなものであった。教官は主事である私の外に二人であとは本校教官の応援にたよる外はなかった。それからは、校舎の建物の整備、県下各学校からの教官を招くことなど重要な仕事如山積した。これらのどの一つをとってみてもそれを実行するにはどうしてもはっきりしておかねばならぬ根本問題があった。それは、「新制度における義務教育としての中学校とは何ぞや」ということである。観念的には言葉として表現できても、新しく学校を作り出すには議論ばかり多くても実りのないことである。問題はそればかりではなかった。附属中学校は長い伝統を持つ附属小学校とは別なそして自らの歴史を自ら築いて行く出発点に立とうとする新生の中学校である。また、おなじ附属学校でもあり、義務教育の中にある小中学校として、両者はどのようなかわり方を持たねばならぬのか、ということも深い問題であった。また、附属中学校は附属小学校として連続せねばならないが、他面、この学校を広く県下小学校に門戸を開かねばならぬ。しかも特定の校下を持たない。しかも収容生徒数は定員数によって限られているため、入学者を選抜しなければならないが、義務教育における選抜とはどのような意義を持つのか、など難問は無限に連続するといってもよかった。さらに「附属」という意味も考えさせられる問題である。それが附属病院の意味の附属であるとすれば、優秀（この意味も多分に問題をはらんでいるが）なものだけを入学せしめては、義務教育の意味がなくなるが、新しい中学校とは何か、は議論だけではなく、教育実践を通して模索することとなった。

教育の中に音楽、美術、スポーツのあることは不可欠のことと考えた。とくにドイツ製ピアノを購入（篤志寄附による）できて第一回演奏会をひらいて粗末な板張り校舎にピアノがひびきわたった時、音楽を解することのない私のようなものがひそかに涙をくんだものである。

今日でも私の思い方はかわらないが、服装、態度の乱れは中学生教育において留意することであるから、「生徒心得」を作ったが今日それが生きているかどうかはしらない。また歌を愛する心は少年に心の故郷を愛し、はるかなる未来へのロマンをかがげるとして、校歌を制定したことも私には忘れられぬことである。この歌は今日健在に生きて歌われている。このように

して、自らの姿を模索しながら、附属中学校は歩みはじめているうちに、新制大学の構想がかたまり、県内の各高等専門学校を包括して昭和24年に新制度の富山大学が発足することになり、富山師範学校附属中学校は富山大学教育学部附属中学校となったのである。それに伴って、私は同大学文理学部教官（哲学・倫理担当）となったので教育学部附属の学校の主事（私の次の主事からは「校長となられたが終始「主事」であった。）をやめることになって附属中学校を去ったのである。

思えば、今日の附属中学については何の知識も持っていないが、現今我国の教育界の現状、とくに中学校のそれに思いを致して感慨無量である。今昔の感がするが、「今」と「昔」とにおいて教育はよくなったのかわるくなったのかは軽々には言い難い。カントの教育論に親しんで来た私にとっては、現今我国の教育制度全般を人間論的立場からみて何程かの意見はあるが、それをのべるには老いの坂を上りつかれてその氣力を、私はすでに失っているようである。

教育ということを思うにつけて文理学部に移ってからも、私はそれを忘れたことはなかったし、教育学と^{ヘタゴキーク}
^{アントロポロギー}は人間学でなければならぬ、と今も思いつづけている私には、「教育」ということは何であるか、ということ是我国教育制度全般にとっての根源的問題であると思いを深くしている。

人生の終着駅に近づいて気がつく、長らく交遊を頂いた諸賢のうちで故人になられた方も多いが、今となって学問の道を歩きながら教育の道にあったものとしても、わがなしわざの少いことをはじらう外はない。

玻璃戸打つ音が肌さす初霞

▶筆者：昭和18年4月 富山師範学校に着任

昭和52年4月 停年退職

昭和52年4月 富山大学名誉教授の称号授与



職 員 消 息

《新任者》

経 理 部

経 理 部 長 高 原 吉 朗

附属小学校教諭 宮崎 新悟
(音 楽)附属小学校教諭 吉田 人史
(国 語)文部事務官 北 治夫
(主計課管財係)附属中学校教諭 山下 善路
(社 会)文部事務官 伏喜 俊至
(経理課出納係)附属中学校教諭 松井 保
(社 会)

学 生 部

学生部次長 下重 孝之

附属養護学校教諭 松井 茂昭

附属養護学校教諭 沖 幸雄

厚 生 課 長 岡 嶋 敬

附属養護学校教諭 中島代志美

人文学部

文部事務官 須田 雅彦
(庶務係)

経済学部

文部事務官 中村 義浩
(庶務係)事務補佐員 朴木 順子
(物理学科)文部事務官 秋田 直美
(庶務係)

教育学部

助 教 授 押田 雅次
(書 道)文部事務官 室木 正志
(会計係)文部事務官 高橋 知裕
(理科教室)

理 学 部

助 手 阿部 幸隆
(代数学及び幾何学)

助 手 笠原 一世
(分析化学)

臨時用務員 西島 健一
(会計係)

工 学 部

文部事務官 島田 勝弘
(庶務係)

文部事務官 佐藤 修
(学務係)

文 部 技 官 本崎 剛
(工場係)

附属図書館

文 部 技 官 土田 敏雄
(参考係)

文部事務官 小原 俊一
(閲覧係)

経営短期大学部

文部事務官 竹田 充輝
(学務係)

教 養 部

教 授 小林 浩一
(物理学)

助 教 授 大藪 龍介
(政治学)

講 師 稲田 篤信
(文 学)

講 師 西村 芳康
(英 語)

講 師 江上 繁樹
(数 学)

学 生 主 任 林 清治
(学生係)

教務補佐員 齋藤 昭人
(化 学)

《住所変更》

教育学部

附属中学校教諭 大房 龍雄

経済学部

文部事務官 中田 節子

教 養 部

助 教 授 岡村 信孝

事務補佐員 山ノ下久美子

教務補佐員 石丸 茂雄

《住所表示変更》

教育学部

附属中学校教頭 西野 秀夫

主 要 行 事

本 部

- 3 月
1～3 日 昭和58年度北陸地区国立五大学健康増進合
宿セミナー
4～5 日 昭和59年度富山大学入学者選抜試験
5 日 会計係長会議
5～7 日 中部地区任用業務研究会（於 人事院中部
事務局）
8 日 第26回北陸五大学施設担当者協議会
（於 金沢大学）
9 日 第4回公開講座委員会
10日 第7回富山大学廃水処理室運営委員会専門
委員会
12日 第6回大学院委員会
第12回評議会
13日 昭和59年度富山大学合格者発表
13～14日 昭和58年度服務制度説明会（於 人事院中
部事務局）
14～15日 昭和58年度厚生補導担当教官研究会
（於黒部荘）
15日 第7回入学者選抜方法研究委員会専門委員
会
16日 退職者との懇談会
21～23日 理学部第2次募集入学願書受付
23日 昭和58年度専攻科修了証書、大学院修士学
位記授与式（於 事務局大会議室）
第1回国際交流委員会
24日 昭和58年度卒業証書授与式（於 富山県民
会館）
名誉教授との懇談会（於 富山県民会館）
29日 第6回事務協議会
30日 理学部第2次募集合格者発表

人 文 学 部

3月8日 授業時間割担当者会議

大学院設置推進委員会

- 10日 教授会
23日 文学専攻科修了証書授与式
（於 事務局大会議室及び学部会議室）
24日 学部卒業証書授与式
文学専攻科修了、学部卒業祝賀会
（於 富山ステーションホテル）

教 育 学 部

- 3月9日 人事教授会
11日 学部教務委員会・補導委員会合同会議
学部教務委員会
教授会
12日 附属養護学校卒業式
12～18日 スキー実習（於 志賀高原発着スキー場）
15日 教務委員会教職科目専門委員会
附属幼稚園卒園式
16日 附属小学校卒業式
17日 附属中学校卒業式
附属幼稚園第3学期修業式
19日 教授会
附属養護学校第3学期修業式
21日 附属中学校第3学期修業式
22日 附属小学校第3学期修業式

経 済 学 部

- 3月10日 各種委員選考委員会
学部教務委員会
教授会

理 学 部

3月10日 学部補導委員会

教授会
 理学研究科委員会
 21～23日 物理学科第2次募集願書受付
 23日 理学研究科修士学位記授与式
 （於 事務局会議室）
 24日 学部卒業証書授与式
 （於 理学部第10講義室）
 26日 入学者選抜調査書審査(第2次募集)
 29日 教授会
 人事教授会
 30日 物理学科第2次募集合格者発表

8日 係長事務打合せ
 9日 館報編集委員会
 14日 電算化ワーキンググループ打合せ
 19日 係長事務打合せ
 21日 電算化ワーキンググループ打合せ
 28日 電算化ワーキンググループ打合せ
 30日 係長事務打合せ

トリチウム科学センター

3月9日 トリチウム科学センター運営委員会

工 学 部

3月1日 昭和59年度入学者選抜学力検査実施につ
 ての打合せ会
 4日 昭和59年度入学者選抜学力検査
 5日 工学部構内交通対策委員会
 11日 教授会
 工学研究科委員会
 専任教授会
 13日 富山大学合格者発表
 15日 係長連絡会
 26日 選考委員会
 30日 係長連絡会

保健管理センター

3月
 1～3日 北陸地区5大学合同合宿セミナー（於、や
 まふじ山荘）
 4日 富山大学入学者選抜健康診断

経営短期大学部

3月1日 第6回入学者選抜学力試験委員会
 5～14日 一般入学願書受付
 8日 第19回教授会
 10日 学生と教職員懇談会
 16日 編入学者選抜試験
 18日 昭和59年度富山大学経営短期大学部入学者
 選抜学力検査
 23日 第20回教授会
 24日 昭和58年度富山大学経営短期大学部卒業証
 書授与式（於 海老亭）
 26日 昭和59年度富山大学経営短期大学部合格者
 発表

教 養 部

3月2日 予算委員会
 6日 補導委員会
 7日 人事教授会
 教授会
 21日 教授会

附 属 図 書 館

3月7日 電算化ワーキンググループ打合せ

資 料

昭和58年度卒業（修了）者数

・学 部

59. 3. 24付

・大学院

59. 3. 23付

| 学 部 | 学科(課程) | 卒 業 者 数 |
|------|---------------------|---------|
| 人文学部 | 人 文 学 科 | 69 |
| | 語 学 文 学 科 | 78 |
| | 計 | 147 |
| 教育学部 | 小 学 校 教 員 養 成 課 程 | 131 |
| | 中 学 校 教 員 養 成 課 程 | 44 |
| | 養 護 学 校 教 員 養 成 課 程 | 18 |
| | 幼 稚 園 教 員 養 成 課 程 | 34 |
| | 計 | 227 |
| 経済学部 | 経 済 学 科 | 111 |
| | 経 営 学 科 | 131 |
| | 経 営 法 学 科 | 49 |
| | 計 | 291 |
| 理学部 | 数 学 科 | 40 |
| | 物 理 学 科 | 35 |
| | 化 学 科 | 38 |
| | 生 物 学 科 | 24 |
| | 地 球 科 学 科 | 24 |
| | 計 | 161 |
| 工学部 | 電 気 工 学 科 | 42 |
| | 工 業 化 学 科 | 34 |
| | 金 属 工 学 科 | 38 |
| | 機 械 工 学 科 | 47 |
| | 生 産 機 械 工 学 科 | 33 |
| | 化 学 工 学 科 | 24 |
| | 電 子 工 学 科 | 37 |
| | 計 | 255 |
| 合 計 | | 1,081 |

| 研 究 科 | 専 攻 | 修 了 者 数 |
|-------|-----------------|---------|
| 理学研究科 | 数 学 専 攻 | 3 |
| | 物 理 学 専 攻 | 6 |
| | 化 学 専 攻 | 8 |
| | 生 物 学 専 攻 | 5 |
| | 地 球 科 学 専 攻 | 5 |
| | 計 | 27 |
| 工学研究科 | 電 気 工 学 専 攻 | 3 |
| | 工 業 化 学 専 攻 | 7 |
| | 金 属 工 学 専 攻 | 4 |
| | 機 械 工 学 専 攻 | 4 |
| | 生 産 機 械 工 学 専 攻 | 2 |
| | 化 学 工 学 専 攻 | 6 |
| | 電 子 工 学 専 攻 | 6 |
| | 計 | 32 |
| 合 計 | | 59 |

・専攻科

59. 3. 23付

| 専 攻 科 | 修 了 者 数 |
|-------------|---------|
| 文 学 専 攻 科 | 12 |
| 教 育 専 攻 科 | 6 |
| 経 済 学 専 攻 科 | — |
| 合 計 | 18 |

・経営短期大学部

59. 3. 24付

| 専 攻 | 卒 業 者 数 |
|-------------|---------|
| 経 営 管 理 専 攻 | 42 |
| 経 営 法 律 専 攻 | 31 |
| 合 計 | 73 |

昭和59年度授業日程表

| 学部等 | 学年 | 前 学 期 | | 夏季休業 | 後 学 期 | | 冬季休業 | 備 考 |
|---------------|-------|------------------------|-----------|-----------|--------------------------------|-----------------|------------|---|
| | | 授業(補講を含む。) | 期末試験 | | 授業(補講を含む。) | 期末試験 | | |
| 教 養 部 | 1.2 | 4/11～7/13 9/1～9/14 | 9/17～9/29 | 7/14～8/31 | 10/15～12/22 60 1/11～2/18 | 60 2/19～2/27 | 12/24～1/10 | |
| 人文学部 | 2.3.4 | 4/12～7/11 9/1～9/14 | | 7/12～8/31 | 10/15～12/22 60 1/10～2/13 | | 12/23～1/9 | 集中講義 7/9～7/21, 9/17～9/22 11/12～11/17, 12/17～12/22 60-2/11～2/16 |
| 教育学部 | 2.3.4 | 4/5～7/14 | 7/16～7/21 | 7/22～8/31 | 10/22～12/22 60 1/8～2/13 | 60 2/14～2/20 | 12/23～1/7 | 教育実習 9/1～10/20 |
| 経済学部 | 2.3.4 | 4/9～7/13 9/1～9/8 | 9/12～9/21 | 7/14～8/31 | 10/15～12/22 60 1/7～2/9 | 60 2/14～2/22 | 12/24～1/5 | オリエンテーション 10/13 |
| 理 学 部 | 2.3.4 | 4/16～7/14 9/3～9/15 | | 7/16～9/1 | 10/15～12/22 60 1/10～2/13 | | 12/24～1/9 | 物理学基礎実験 7/16～7/21 化学 実験 9/17～9/22 生物 実験 4/9～4/14 地 球 環境 10/8～10/13 |
| 工 学 部 | 2.3.4 | 4/12～8/1 | | 8/2～10/21 | 10/22～12/22 60 1/7～2/23 | | 12/23～1/6 | |
| 経営短期 大 学 部 | 1.2.3 | 4/12～7/20 9/10～9/15 | 9/17～9/22 | 7/21～9/8 | 10/1～12/22 60 1/9～1/31 | 60 2/1～2/7 | 12/24～1/8 | |

期末手当及び勤勉手当の支給日の改正について

人事院は、一般職の職員の給与に関する法律に基づき、人事院規則9-40（期末手当及び勤勉手当）の第

14条（支給日関係）の一部を改正し、その要点は下記のとおりです。

1. 支給日の改正

| | 支 給 日 | |
|------|-------|---------------|
| | 現 行 | 改 正 |
| 3月期 | 3月15日 | 現行どおり |
| 6月期 | 6月15日 | <u>6月30日</u> |
| 12月期 | 12月5日 | <u>12月10日</u> |

2. 支給日が日曜日及び第2土曜日（銀行休業日）に当たる場合は次のようになります。

(1) 支給日が日曜日でその前日が第2土曜日に当たる場合→支給日の翌日

(12月9日(土), 12月10日(日)の場合 → 12月11日(月)支給日)
 (第2土曜日) (支給日)
 (3月14日(土), 3月15日(日)の場合 → 3月16日(月)支給日)
 (第2土曜日) (支給日)

(2) 支給日が第2土曜日に当たる場合→支給日の前日

(12月10日(土)の場合 → 12月9日(金)支給日)
 (第2土曜日) (支給日)

(3) 支給日が上記(1)以外に該当する日曜日にあたる場合→支給日の前日

(6月29日(土), 6月30日(日)の場合 → 6月29日(土)支給日)
 (第5土曜日) (支給日)

3. 実施時期

昭和59年 4月1日以降



| | |
|-----|-------------------------------------|
| 編 集 | 富山大学庶務部庶務課 富山市五福3190 |
| 印刷所 | あけぼの企画 富山市曙町8-4 電話(33)3356(代) |